



集義水書
五

曾
15
5

13
15
5



集義和書卷第十四

太田文庫

義論之七

一心友同古人の徳を形容を其中心一の
聖人と云ふも出づる親切なりといふ也



云書經小帝堯の徳を記して云欽め文思安安
允恭克讓光被四表格于上下とか所親切行
尊のよりありし欽も本體固也の敬なり無心自
然りて存せり維天之命於穆不已といふのあり
深遠よりしてなまが子とのみ常に虚靈不昧也
欽めといふ文思は河やの系ありひたりと心の官の思
少之間思雜慮不常往來の妄めありをさしる程
何よりいふに乃と免照して不討の思素よりいふ思

明 13
口 冊
辨 15
卷 15

義論之七

まりていふら聖かともいふ先達たゆら守天下の人
 の天質の美を盡くしめらるゝ謙譲乃を己とて
 今もいふ人と思ふ心なれど心虚に之を是と有
 せば明りて人成か人の才知乃はくふをそのこと
 天下の事と天下のくふあはしめ給たり帝堯は天下に
 人の才知を主師くふ人不知也終く天下をくふ
 傳へて賢りゆぐり終く遊讓の大なりとの也
 帝堯一人の奇特よありは理の當然ありあはれ此理の
 當然と行ふと至徳はいつくまふはひびく光被四表
 と天は覆く地の載く日月の照く霜露
 の降く舟車はく人力の通く不瓦血氣
 ありとのハ多親せもといふ所 聲耳名守国は澤溢

して施て蠻貊小なむ教の末の世も或る日本の
 遠方の者もやと心よくふとけを格于上下天地は
 育てゆへ陰陽の氣至和至順なりぬ風雨民代形
 よとくは一時は雨や時風や枝をならさば壤を
 さらし鳥獸魚虫草木中を其澤をかりく其
 類はこらふとて帝堯六人の身方す此神舎如斯の
 靈大よまると神明不測の妙天下古今にふよとく
 一のゆらんや
 心友同易经よとぬ程の理をまると傳じ朱子に
 筮と主ると本義とやり陽明子云と筮は是理也
 又是卜筮也卜筮の疑を決し吾心と神明よすりと
 求ふゆるとまるとは祭明なるといふ心と居

心は生るの理を以て神と申す日く生其心と申す
是を性といふ性心の本然也

一 學友同老子慈謙儉と三宝に其意いふし云
慈ハ仁乃實也人を愛とんれんも亦己と愛も人
の性ハ心をわけて親と敬ひ子に愛す和氣身ハ
みらく命かり善とてやして悪とてめくまは至公を我
れにむらう体ゆるやうなる天地萬物皆己有
たり太虚と心とすも己なり人の貧賤も己有
賤のどしぬ義に當て財とちはず人の富貴
も己有富も己有ぬは富も己有ぬ徳有りて
士誠教へ民を安する己の子の家を保て己の子
と養ふがとく不徳にん士誠不教民誠不安己子

此不明なりうふは身は年月より七はよれと人か
教へくも教ふといひ己の命也謙ハ虚明の徳あり
心物なりぬも天下此益と兼ても争ひぬぬらぬら
がれは天下の己よりぬらぬらぬらぬらぬらぬら
すやいふとは天下此知をわけて用はれぬぬぬぬぬ
教とて己の常よりぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬら
と謙欲せぬぬぬぬぬぬ謙ハ己の徳也老く早くと論ハ
らぬぬぬぬぬ者も常に愛敬と吉祥家ハ何れぬら
儉ハ無欲の道なり是れは富る者ハ富ると不富ると
とすうの要也事とて先ん物を備へも不有小随て心
たりぬ物もくぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬら
はぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬら

公家及びいゆるし物うさくまをもちけりて公家の
もたふに創りし能筆もと平人のもたふにさしぬる
なり世に夫のゆりまをほりて長氣とくつきの道徳也
まるとい樂むらく成之ぬく公家の公家なる位とまふゆ
ぬぬくまふらさるる人のたつてまふたをうとまふ人地と
てい思のまをま上何程すあまきしまをむりく成約
らして至理の寓する物とて何んか聲なり世に俗を記
まの也ゆりあまきみせん能拍子なりまをたつてまふ
まといつてまぬ樂成好しむる百ちま一二人も異なり志
人ありてまぬまふ

一心友同いなるは是中和とせん 云いひかう過不及と
かとうら今日の中和と被りて天地位一万物首

すいふよまの徳のまも也

一心友同天地万物の始十二万歳の教何とまふてうあまは
まふ云一晝夜則十二万歳は配も陽のまを夜は情
明の時視ゆるは聞となく思ふまをく作まるとなく
然平懐るまは則是伏犧氏の世也なり平且此時神清く
氣朗けり之雍と穆とたると則是堯舜の世也日中以前
禮儀交會氣象秩然とらる則是三代の世也日中以後
神氣漸く昏と往來雜擾すまは則是春秋戰國の世也
漸く昏夜けりて万物寤息し景象寂寥にまは則是之
漸く物盡る世界学者良知とけりて氣のたぬまの乱と
す常に儀皇已上の人となりんと晝夜此道を通て
死生とまふ死生に通とて天地の有無をなし有形の

と何と常行らんを執るべき所すふ不則天地の終也

一心友同聖賢君子小人異なりを云ふ事をも世よんを
さると何なるに何や也 云君子富士山のよくあらんを

わのふより富士高しといふ事も平地ぬちうとて方山を載
望しとせん河海とれと先之とらん廣厚の徳は

といふも平地何の見ざるもかゆん世中わい学知の者
大なる衆は異なりわくわくするに庭前築山のやと一の

まじりきりたりと紙を云を

一心友云ん死して其神天よ歸るといふ何の精神の一
物よ成て天よ歸るとは魂氣游散し魄体蟬蛻入て
室に寂たりたりたか此室乃と本来の常体を云らす也

云ふらん世の形体の上より見る紙を云ふは生死の

二也といふは天よ歸するの説あり吾本不來天を吾

と一也何の序とらといふとかはらむ吾心の靈明則天地の

万物と造化する主宰也則鬼神乃吉凶災祥をりて精

靈也天地鬼神は精靈主宰なり吾心の靈明と云らん

吾心の靈明はくハ天地鬼神の靈氣を云ふらん今死体

のハ精靈游散と死体の者の天地万物はつものあり

ゆふやぬ君子大とわくまの天下よく載あるく小
をこもた天下よく破と解

一心友同朱子道心常ん一身の主と成らん心毎に余と云

といつと陽明子二心也といふ程子の人心は欲也道心

天理也といつと心と云天理人欲並まらん何ぞ天理を

成らん欲の命を云とつとわらむと程子朱子王子

一と賢者なり他乃文義よとひてハみらふかその
 五を人心道心天理の欲のあり如斯のたけいありや
 一事なりとも云む心ハ一也人心正気得るの別道心
 かりこあるよ何らに惣しく語を解く古人の意を
 じつと見せしめて言説文章ありともいふことす
 古人の苦心からねえんころなり非と何とよとを
 今愚昧子れ意をむく見よ人心道心二ありことす
 一何ら守道心一身の主と欲と人心命以てくといつ
 一のハとくくたをどんりなりあよ云心乃虚靈
 知覚と一乃と性命正し本つこと天理のこと
 知覚す事何れあはれ道心と云れ氣の束よりて知覚
 すも時ハ心は欲と云む人心を欲と見よ和よりの
 の文勢也竟舜傳受の人心乃天理人欲とにしてハ
 何らす人欲をさハ危といふ事ともいふ悪也危といふ
 一の今ありや一也何らことともいふくなりハ
 欲のあり人心の形の有間形はつこと知覚運動す
 一のことして云なり寒暑と云り飲食男女を知らず也
 一と欲と見ハ異字に似たり人欲ハ何ら義理
 乃上より知覚と寒暑と云り飲食男女を知らず也
 暑と云く一と理は随てきしり飲食男女を理り
 物を飲食し男女を禮あり理何れと相親むを
 道也何れ人心と欲とせん寒暑其分よあえ温涼
 を求め飲食よ得る物を飲食し男女禮法よす
 理不叶く相交ハ人欲の根を此形あり同ハ欲

付たり生欲の好む此生欲の好む不實の虚あり
に求め應ず子拘之又形色あり物何と則何の
此生欲の節中より精靈の照し微細し
色あり精一乃工夫ありなり存し精
心と神明に相火たりす氣は自ら清
淨の真樂存する形氣の欲小なり色を二團の
天理のよき形氣あじもの也二心なく二道あり陽
明子當世の学者の心理と二に外は向法此病
格らふ急るれ末子の苦心と察し一意をむく之解
めいゆる時の弊より成るなり又程子
の人心と欲といつる生欲の心なりかろく見て可也
一心友同陽の子云唐虞以上乃治の後世復之からんこ
代以下の治の後世法より魚うり惟三代の治可なり
こと世乃て代とつる者其本と明子世乃て其末を事
こも又復とつる事とて代の法今の時よりゆるや
云方世師ことと他方法より之を堯舜の治也れは
備らんといふも渾然と存せり爲恭にして天下
り易簡の善至徳に配し中和と致し天地恒し
万物育するれ也子思云仲尼堯舜と祖述し
と憲章も孟子云堯舜法降らざるやその者
ありと唐虞二代も其本とめりす不対也其
末代事とする時より復と魚うり三代以下は行
きされつるならん世乃て代といふもの多し
起る末代事とせり夏商とす一時に應ずるといふ

義論

士

予者よくかゝり孔子云夏の時を以て殷の輅より夏
周の冕と服せよ樂ハ則韶舞とせよ是れ孔子の
尙舞三代の法ハ其時よりよむもの故取法ハ意あり
聖人の法ハ春夏秋冬の時よりよむて衣服飲食動作
の興なりゆき久けしハ弊ありをなす時小國で推
蓋と云ふ又曰麻冕ハ禮也今純ハ儉せよ吾ハ衆子從
緇布冠ハ三十升ハ布以用之と禮乃法也といへども
今の人乃子よかりかゝるは世人の多斌省緇を孔子
ととるはい多也三代之礼といふこと今の時ハ人情時
勢ハ氣力ハ時々紀よりの用へしはす可く或は今日日本
の他方よりよむと祖述ハ師ともく唐虞の治
也孔子云吾為は治るとのハ其舞ハ黃帝堯舜
衣裳と云ふ天下治 同陽明子云乃ハ太古乃俗と
云の之せん欲するハ老佛の學術也とゆと反朴還
淳ハハ万事と放下せよハ叶愈しハ專ハ無為以
事とするハ三王の時固て治を致しハ不能
云無為ハ又真の心を以て時固て治を致しと近
者いともるハ則無為なりハ儻ハ太古淳朴の法と云
ハ行もじハ欲もことと得愈しハ勢あるハ人云わ
るハ大小害ありハ天下ハ大乱ハ虛文勝之實ハ衰
ハ小ハ大と云ふこと事法ハ何れハ儉物朴素ハハ
するハ其向の虛文不實ハ何れハ之をくまハ
て私ハよくますハ事ハ多斌博幼ハ何れハ
雅心の滅と云ふハ天下誠をるハ天古無為淳朴ハ真

長論二

七

さらむ風俗ハ漸をいひて優とて害ありとらに
一心友同下学上達ハ下人事と学て上天理ハ達とていふ
心云云云陽明子云教愈く学へく功夫と用つ
者ハ皆下学也上達ハ下学の裏小何ぞと耳却て聰明
説解ハ精微心思ハ功夫ハ人事也此人事の中より耳
目言説心思ハ人カぬ及愈くはれし自然不潔者
何ぞと上達則上達の天理なり下学の行と知人の教
ふよりとてをいふなり

心友同知の合一と云ふこと知く不行者多し知と易
く行と難しと云ふ知行合一といふをわらうらん
云王子云知ハ行の始りなり行ハ知乃成也とけ説易簡
とて學を知らしむとて行を知らしむとて始りなり
よく終わらざるなりといふものなり

心友同周子静と主とすといふ心を存とすといふ
から静なる自然ハ未発の中よりいふこと
云静よりして静を求むるは氣の静也今の心
是得て存心といふは未発の中にあつた古人静
と主とすは乃功夫ハ平生主義小なり理ふこと
乃此と云欲とて云欲るもの心自然ハ静にして未発の中
存とて未発の中ハ動静を以て換弁し静を好むは動
といふあり理よりして専らるは物よりして多ハ真ハ静
よりして程子の性云云ハ心の本体也動静ハ遇とて
也王子云精神道徳言動大方收斂を主とて発散ハ是不得也

也天地万物之れ皆其性主靜乃功不益わゆる人常之を得也
しつゝ應十あるにわゆるはまきり心無欲に自り事也
心交同俗樂真樂の分らむ 云憂苦と去て悦樂を求る
俗樂也天地乃理陽乃と陰なりと何らん人よれ境
苦樂なるひりしてこと苦といふことと去てわゆるは樂と求
こと得るとあつたれは樂と得ると樂中に苦と去ると
患難の来るとその寒と氣れいぬるかきりてあつたれ
らんは俗樂は佛家といふ水の泡のと電の影れと幻の
ごとく其有と定がく真樂は悦樂憂患と以て二よせし憂
へりて憂といふも憂心中へ欲れすしつらなげし其樂と改
めは悦と去りて悦と去ると其喜心中へ欲のありりか
きし樂之流るは怒とくといふをいひたれ氣れ動は

心体廓然と云は本体の正と不失た
剛者と見ると其非道りる我心も怒りりあつた
我のわらりるも心不動と云は病若くは病の爲り
心体と云ふは常に快活の本然を不失此心の不動と云
別樂也むむと死生乃理ことひく聖学は徒大休すのほ
晝夜の道とむむと理はさきまうと云は其心正の
自らるてわると同一くおもとわらるるも心正の
之、これかららるるは全体子をしていひて融擇せらる
不わらる也と云は八の至樂なるをわらるるは世能死と
よとる者ありと云ふと感は善より或は学見よと云は心城
起りて後て安するなり晝夜の道に通しそ者もきり
一心交同世の学者は死して精神あり父母先祖を祭ると

い其其を愛する者れは孝子の心乃死す事なるを
 事りゆくすも乃とて死す事なり死しては何れなる
 云此身之悟道せむゆへ易き事也た人心乃とて見
 わる人心形之氣の心也此形ありて此心あり吾人乃本心
 理ハ無始無終生まると不息則性則心也君子此理明
 らふ志く存せ死生以て二とせむ人心も天理を以て
 動と死ハ形也たふ天性ありて死とせむ者也亡むる者
 常に存し亡むるの今よりなり生死を以て有無以
 の者ハ道と不知なり

一 舊友向貴老いけし仕官の時罪人ありとも吟末と志
 好つれ殺すつと者ともたをけけつと和子過るとり者
 あり 云野拙はむし風王の當世の風とありはたらん

むし一の武士ハ人を大切たして理屈と成るるは
 罪科よりゆつと者ともたすに死す事なるはか
 かりて死す悔さるて改めんと欲せし世と此理
 屈と刑との殺すとて者もたはる其身に成るる見
 事なりとていふ者も其心を察して助け約を今世間
 事事なりあり理屈專にゆへ人を愛せむ罪過とも
 見出し理屈とて穿鑿金せ直なり人多くはこれに
 同さへて國家ありては用もとて之とて者とも何事
 をして見ゆし言教とやらんきく頼むもの也といふ
 侍も死すかへハむし死すか多かるをたしむるは
 あり事無事一あらんと死すといゆる

一心友同間思雜慮乃妄念をくもるを欲せしむるを云
 成りていふありエ夫れく心魔を降伏せしむるを云
 吾子何の爲に世妄念をくもるを云悟道とて感なく
 心樂をのり苦行をくもるを欲せしむるを云何ぞや吾子の悟道
 と云ハ闇夜の明かりをくもるを云悪夢の夢をくもるを云如くならんを
 思つるを云云々云々云何ぞや吾子の願する心樂といふを
 世間諸の苦痛去て心常に快樂あらんと思つるを云至る
 云々世諸の惑諸を苦ハ皆私欲より生れ吾子凡根此
 私欲を秘蔵して私欲よりかふるを云終身功を以ん
 佛者れ今生やをもかふるを多量生欲願せしむる其心
 則地獄なりとを知らぬ也合員欲を奉りて願ふも也生
 代願者の欲なく悪れなる者也といふ世利とす音あり
 道学は云々云々の人も吾子苦感をもくもるをくもるを
 異るる如くありと云々凡心乃私欲利害と事なるを自
 大欲と惑との一病兩痛に同思雜慮乃源也此源を
 不絶する間雜と克治せしむる凡心と云々俄く聖人の
 思ふ爲寂然不動感して通する位と望むる是義を
 以て修養するところと云々の也身と法を以て得へし吾子
 恒の聲をけき共恒れ心あり盜法せしむるの事と云々其
 義入神故に盜とす人々間思慮なり盜と云々其義を以て
 是何の至人何の至り得たり也此事は欲感の病なり其
 心故に一分心と盡せ一分心明悟あり明悟あり明悟あり
 性乃妙用也性と盡すに従て生は明悟あり明悟あり明悟あり
 至る者ハ私欲なり私欲を以て道を得るは心ハ心ハ心ハ

後論二

十五

活潑々地生々不息以理是故心之官思心一而私欲の
 累除て天理流行す其時公思公慮皆其官成也これを必
 百慮ともいふ清水濁水同く一河の流なり其濁を思
 慮ハたると水のとく同難ハ濁なり濁をいへて水
 を去るじこするは源あり泉ありはこむじ愈々其同難
 を去て思慮成をぬと欲をいへて心の活潑流行は
 純へらば源泉ありて不息に成りしり濁ハ
 一旦の事なり之根は又そのもは根なり本原乃水計ハ
 内之清也学者之又期す公ありて一と實とつとめら
 やまらり阿の間難の妄ハ一旦乃迷るれど次第乃之を
 去て心の本然を以て身ハ天理人欲並不立といへる章
 私欲と心源なり其心源より出づるもの成をいへるす

ハ惑也天理と心源とをハ割せばも間難除ぬ一陽の
 云養生ハ清心寡欲を要とん養生の二字自私自利此
 病根東は滅して西は生見清心寡欲終は得へる
 又云寧静を求むと欲して念生するともいへる欲
 あま自私自利す其意必の病也是以之念ぬく生し
 いよハ寧静ならん今吾子念をららハ去て妄念
 其方亦を本体と思つるハ不可也此却て私念死体也
 維天之命於穆不已といへる天機活潑あるりくもや
 む愈々其心ぬく念を犯すたは正しかりん其欲
 すり乃思無邪の二字心法と盡せり言近しと旨
 遠しなり学者ゆるを以て無窮の味を去る戒
 慎恐懼して獨を慎むと則念也君子ハ無欲といへ

静う好悪を以て念ふ

一心向ふ人の心を以て書成るは博文にして

物禮を悦ぶ情時愛小達して甚る睿明也其世より

直談せし人のいづるも書すべし其の快くはくてもや

一さうとくなる人なり厚勅篤實の君子にゆき

疑ひも記してゆきん 云むさあはて天の物とまする二

なりら全きことあり厚勅篤實に人なり尊信義

稱する人其睿明の才とくは睿明廣才也者又厚

勅篤實乃實有なり人なりあやといふも則睿明の

天質よつとたる疵也小兵数男の人又大勇のあり

大勇のきこえありて其人をんまわやきには教心を

まのくじりて人とするなり神靈にる各殊は疵

あつとくし右のいさへ此疵あきた疵は疵の三つあり

又瑕とて睿明の人其疵を以て君子の風とつとる

とくも則君子なる事故とらば平生をたすこと歳

寒して松の節をよまくるをみしは家徳あの人

とみること古よりかた聖人のく篤實睿明の備

はしるれふ十一人の列聖同坐して其氣象同一

なるなり況や大賢以下の人恭敬篤實にして

そのより君子とにらるる氣象の人又天下百千感の

おぼ惑といふかきやその睿明廣才はたその也それ

やそのよりこれより英才は必して恭敬篤實は不足也

強きことこのを欲清淨なる事ハかりなり

学友同天ハ其理カ事ハ應して真心也聖人ハ其心

事に順いで無情也無心無情なり紀はとれりきるに缺
るよし時心あるといふとよく心ありといふ可なり

云歌子心ありあとの六かなさけをくふたらしむと仁愛を
物よ心得之平人ありきる成り成る心なきことつら

何をえとらぬ賤男賤女は周しき者よりあさけん也
よ成る成る一取主人ぬを情とつらと情なきふれ也

天地の四時の及れと一理は和しと氣ありと記す
よかり無心と云と至公より私心が記すなり

一或同本体の空く寂たるを感何とては日なり感する
は是氣也惻隱の心と赤子此井に入ると見之發と抱

の感するあり何とて應する也感應の陰陽なりと理と
いふるは仁義礼知の氣乃靈覺也本然の陰陽

感應といふは是とらるものありと云 云本然の理
せよとて内なりて感も本然無一物の時何者なき

感應といふは本理の靈聲無臭の寂感也むらと感せ
天地と何よりとてなりとて感乃用成る云と

を氣也本体の感の見成るなり用へりするの成るなり
いふとてなりと感應をいへり本体より成る天下

なり通するありけり其本然なりと成る感と云氣の
了りたるなりと以之いへりあやまり也又か体り感

あること見とて本體を不知也至神の神なりと
一心友同操に記し存とていへりともなりと一物

かふといへり云古人乃云欲とて物を是形色れす
あり留蔵とて物に氣象乃よはり欲とて

留蔵リウゾウと云ふは心ココロの存タラシと云ふは操スツと云ふは存タラシと云ふは子コ則ノチ
 隠羞インシウ惡辭アクジ讓シヤウ是非シホ此ココ四端シツタン乃ハ發見ハツケン一ヒト著ツクる事コト多タ六
 撰セン存ソクの事コト一ヒト也ナリ忿憤フンフン憂患ウヱン好カハ惡アク恐懼コウキョウ情セイ日ヒト之ノ小コ滋
 長チヤウするハ放舍ハツシヤ亡失シツシツ乃ハ去クる也ナリ 同四端ドウシツタンと亦情オクセイを去ク
 るや中心チュウシン乃ハ至思シ無為ムヱ寂然ジツゼン不動フドウの常体ジョウタイは存タラシるも
 自然ゼンゼン之感カンハさハとあるは一ヒトとけり然シカドモ以ヨリ之ノ一ヒトとす
 何ナニもや 云天理ウンテンリ人欲ニョウニョク並不フビ之ノ心シン天理テンリを主ヌとする時トキハ
 人欲ニョウニョク亡失シツシツと是以シテ操存ソクソンと云心シン人欲ニョウニョクを主ヌとする時トキハ天
 理テンリ亡失シツシツと是以シテ放舍ハツシヤと云天理テンリ存タラシする時トキハ日夜ニツヒ天理テンリハ感應カンオン
 乃ハ之ノ小コ万物マンブツ一体イツタイの理感リカン一ヒトハ惻隱ソクイン之情ノセイ發ツクる義ギ乃ハ理
 感リカン一ヒトハ羞惡シウオク乃ハ情發セイハツと礼知レイチと云ク一ヒト乃ハ是レ皆ヒト真實ジツシツ無
 妄ムヱ乃ハ天理テンリ也ナリと云と天理テンリ流行リウコウと云則ノチ無思ムシ無為ムヱ寂然ジツゼン不動フドウ
 の常体ジョウタイ也ナリ思無邪シムセと云思シと云私シ己ニの動ウツクる事コトを
 理リハ寂然ジツゼン不動フドウハ有事ウジ毎事バイジと云と云ク二ニは世セと陽明ヤウメイの子コ云鐘
 未扣ミカウ時原ジゲン是發シツ天動テンドウ地既チキ扣時カウジ也ナリ只是ジツ寂天ジツテン冥地メイチ
 同天理ドウテンリを主ヌとする人欲ニョウニョクと主ヌとする心シン乃ハ外ガイハ天理テンリ人欲ニョウニョクと云と云
 何ナニも云ク一ヒト云云ク云心シン外ガイハ天理テンリ人欲ニョウニョクと云と云亦外
 一ヒト何ナニも云ク一ヒト云云ク喜悦キツエツする時トキ乃ハ眼色ガンシキと忿怒フンす
 亦雨オクウの眼ガンと眼ガンと各別カクベツ也ナリ一ヒト乃ハ同ドウ一ヒト目方メカタ乃ハ此
 心シン表ウラハる乃ハ此ココ以ヨリ之ノ天理テンリ人欲ニョウニョクと云と云乃ハ此ココ也ナリ心表シンウラハ
 亦向オクウの性命セイメイ乃ハ本原ホンゲンを不フ失シツと云ク然シカドモハ天理テンリを主ヌとする也ナリと云
 心表シンウラハする向ウラハハ未ミと云ク亦雨オクウハ人欲ニョウニョクを主ヌとする也ナリと云
 向心ウラハシン内外ウラハナウチなり何ナニも裏ウラハ向ウラハと云ク一ヒト云云ク云心シン
 亦内外オクウナウチあり内外ウラハナウチは入イする也ナリ一ヒト云云ク一ヒト乃ハ此ココ心シン表ウラハ

木の心三波云あり 同七情へ聖人今つとをたかふと
何んぞ一故舎れあふ一と心得かき 云た聖人
乃らりらるる天地と人七情ありんまといふも又四
端何れん人の四端ハ百姓日く小用之石かごまのや
聖人乃七情ハ形色も天性なりむらり聖人の
後よく形を踐あしと云ものなり

一同志れくくの書を懐あし心と用之書以讀く書と以之
心と讀く多くハ書以本らて心を未と一書ハ文義
を解せんと紙求て心をわらりならん湯ゆ子是と
食また子食ハ此身を養ふもの也食一かこら之ハ消化
とて若食積て消せと生ハ病とりと後世博文多識
胸中に済面者ハ食傷ハ病也といふあまよ書を見者ハ

かまらり解せんせ文義よらるはゆと只書一
よめて自己心と説けて好まらるを樂し也心得も
本知一とあし解一とら得るハ本ささるるざあし
知えハ知覚り記あしむらんが為也あれた不知死ハ
論埋も 同先言性行と識一と徳をたかふらる
つらいつむ 云本立と記ハ知識たきけとあし
よらら記ハ知識累をさると也此身を養を以てま
とすつ時ハ飲食ハ助けとすり末を好しむなり
時ハ病と生すあし
一舊友同今れせよあしひやのむく代奉公とをさる
先ハ汝物せ記て困窮せしむあしハ死罪流罪
の罪よつと若らるるをさしむらる思ハゆるる君子

と諸侯はしる如何なるからひ給ふ處もや 云此程にして
深げき、偏し如くしきられたる君子ゆくとてけりし
世も或國主の仁厚寛裕なるありし、他家より切腹
をされし罪あるものも、我彼者よりけりありて
及ぶ必まといひつけりし、主君を討しては
目けり成りし、死をせしむるも似し、黙
して切腹するも、死をせしむるも似し、扶持
給つり、不届成事より退く者、とて先きを
ゆせし給つと、他家より扶持せらる、特其主人より子
細に給者、かき給ふあり、あまし、不届なりし
者、とて、皇室なり者、より目録を給ふ、
答は、一也ありし、身より、
感謝を、一、信ひし、思ひし、こと、古主、
遺りし、換りし、事、公人、成りし、
其言、一、むありし、人、皆、
妻子、一、家を、助、
一、給つ、一、人、乃、
至用、の、事、也、
一、聞、て、
一、乃、
一、人、
一、徳、
一、十、

長八郎

長八郎

之世のさきつと者しるるもとく不佞乃事ならずや
かみ孟子よつすひらうりりし士よ事ならず乃事ならず
上下の且乃命也唐日本とともは同一

一 舊友向平此清成血常般無う是は違ひて敵れ子と助
けをさ子孫乃憂うりりもつと其外如此のたれりま
よくだつ孫末く殺ともさるりなり
時いさなり天命と知人よりみまもあらず色は固よりす
して人乃根根はみつてさるりなり
助くさるる中より義朝の子孫不殘殺一たるも
清成血常悪虎平家の奢りもハ外より敵れありて
けらほらる一平氏天命にうむさるるなり敵
と生すさるり誰といへるなりす一違ひなり

いと助をさるる人の法をりるなりは平家れりるなり
子孫ありかきくふはさるりゆり今にさるるなり也
心友同書簡中主忠信ハ本体工夫也誠意ハ工夫本体
也とい陽の子乃學術異學の病ありに似るなり如何
云乎此語意不神和なりとて執りてさるるなりとい
く害なりもさるるなり改めは忠信ハ人の心も根幹の徳
也誠ハ天乃道也別本休也誠を思ふ人の道なり則工
夫也主忠信ハ誠と思ふの義なり誠意の誠ハ意と誠
よむらるるハ工夫也然れども意終ハ誠は帰さるるこ
記ハ誠ハ本体也故ハ工夫本体とすなり
一心友同怒思難く利害はさるるなり
云怒れ火氣中ハ言以過一りともやと後梅

乃難わつものなり難く犯へりては得よ及了君子の
懐刑小人の懐惠れ類有り惠とたり小人の利害は心也刑
をれよ君子孝子孝子忠慎之也怒之難哉思ふ深淵は
隘ては落入むるは慎の道理也小人も甚難と心せよ
くもせよいとも思はれぬ火氣よれらるるは其難と云ふ
辨へも君子は義は當て難と云へり自
す秘く猶を云はれしみさくふなり火氣よれ
ぬは心の好の難哉前も怒ぬよれぬ難
れ樂く不淫哀て不傷小同
一心友同舞乃怨慕へ誣非怨父母いり孝子れ
ららみなりと聞かたは心云則孝子乃怒る
常人の父母をうらむるは難くは父母は

怒はうらむるは難くは父母は
かぐも又母をききしは難くは父母は
一心友同神代の三種れ神器は知仁勇れ徳の類くを
ぬ内侍所を第一と云ふ如く知と重なり何と云
人君の国を治め四海は太平なり事知を以て主本と云ふ
うらむるは難くは父母は
無事にして治る事あり時士民皆主君の下知を信と
付仁愛勇強にして一旦人よわらるる人をもつを
ゆりありさき命令可に不當なる法令數多し成之
事と云ふ人ありゆるるは難くは父母は
人をもつるは難くは父母は
かぐも又母をききしは難くは父母は

乱るゝもの也夫神の代人代乃其むらゝ治体子通一統の
た子鏡金鈔と以て加仁勇化象と一知を主と一治り也
知乃實人を知こと也人を知事ハ帝堯を二知之昨
と云々也

一心友同紂王亡一而くハ自乃大悪虐と以て也商乃天
下とたとして子武王ハ六百年をきハ天下皆代々代也宗
族外戚カさるゝ一紂をひく悪人ノさなくハ四方皆商
子孫と君とす人ノ情あり何ぞ同輩ハ周を君とス
る子武王紂を亡一治のし其子孫立一武大國と興
へ治をくハ元初ノ及こあわらと天命を知治ハ也敵
子と云ハ求て殺とハ子孫乃と先害玆除くともうす
と云ハ世是よももく却て天命をまびく理法
もハ以敵の子を去るくハ世とくハ世とくハ世と

もとて天命よかまハ却て長久也誠子天命の俾
すもとくハ人カ乃らよとてよわらハ武王ハ聖知は
よく命を知らずハ友なりや云々ハの理武王の学は
自也してくは是は事と云々よハわらハ世の天
命をわらハくハ道を行ハ吾人乃心術也武王ハ天
命をわらハくハ成へくして成乃ハ時の勝負を必と
せん後の利をえらと可害をさけとあり悪人亡て後ハ
紂ハ子の商の孫子もハまそ退さハた乃と天下
あきを主君とせんことよは始ゆり一天下武王
君とすも天乃命すことら也又辞を

集義和書卷第十四終

集義和書卷第十五

義論之八

一心友同篤恭而天下平、修己以敬以安百姓、とるる、恭、敬、の
 二心、一にして天下國家と平治とるる功とるるものと、さうして、遠
 かくもや、まゝれども、徳のこ也、徳るる人、其容、作、自、反、よ
 りやく、と、と、る、人、徳、の、徳、篤、と、下、よ、の、も、み、治、し、時、々
 天下の(天性の徳と鼓舞を、して、不知不愆、禮儀の、
 と、風俗、と、なり、て、徳、と、や、く、一、刑、法、と、さ、く、あ、れ、
 此、者、守、ぬ、ま、し、ん、と、し、て、私、を、公、と、し、て、戒、懐、と、る、者、
 治、す、時、多、し、道、徳、よ、う、く、く、と、し、て、治、と、ひ、る、と、い、ひ、終、る、
 知、と、用、て、令、と、る、者、一、且、利、あり、と、い、ふ、人、民、も、よ、く、知、謀、
 と、起、し、て、偽、生、と、君、子、の、明、知、め、て、を、為、と、以、て、事、也、

義論八

一

集義和書卷第十五
 義論之八
 一心友同篤恭而天下平、修己以敬以安百姓、とるる、恭、敬、の
 二心、一にして天下國家と平治とるる功とるるものと、さうして、遠
 かくもや、まゝれども、徳のこ也、徳るる人、其容、作、自、反、よ
 りやく、と、と、る、人、徳、の、徳、篤、と、下、よ、の、も、み、治、し、時、々
 天下の(天性の徳と鼓舞を、して、不知不愆、禮儀の、
 と、風俗、と、なり、て、徳、と、や、く、一、刑、法、と、さ、く、あ、れ、
 此、者、守、ぬ、ま、し、ん、と、し、て、私、を、公、と、し、て、戒、懐、と、る、者、
 治、す、時、多、し、道、徳、よ、う、く、く、と、し、て、治、と、ひ、る、と、い、ひ、終、る、
 知、と、用、て、令、と、る、者、一、且、利、あり、と、い、ふ、人、民、も、よ、く、知、謀、
 と、起、し、て、偽、生、と、君、子、の、明、知、め、て、を、為、と、以、て、事、也、

同大人の天地と其徳と合せ日月と其明と合せ鬼神と
 其言凶と合とつりて其恭敬の徳よりよへたり 云上
 下恭敬のつりて其氣和せとつりて其介天地との
 つりて位一万物とのつりて其人民春風和氣の力を其
 て其利と利と其樂と其のつりて天尊地卑一と乾坤
 定四時行をれ万物生と其為めて成るれ篤恭敬ありて
 天下平なるれ其徳也天地と其徳と合とる也日月のろ々
 負明也至誠るりのの嘗之めて不息るれ貞也誠るる
 時に必明也則日月と其明と合とるるり鬼神は福善禍
 淫は誠也故よ不怒して威あり君子善と好よ誠あり
 て悪とめくじよ実也其位人氏のをり感通となり
 天下悪とする事と恐れく邪偽とよとれ徳よりひて

善と孝とつりて鬼神と其言凶と合とるるり古今邪
 偽凶乱のせらるる皆不徳しりるなり故は百邪よ
 勝るものつり況や有徳の君子よ在りて其心の恭敬
 行るる時に人これを惠清一山川の衆邪滅と知深
 勇力あり者其才と礼樂を為書教よ用て天下益文
 明よ武威は盛なりなり云古之強有力者將以行礼
 今之強有力者將以爲乱
 心友同く近く其とつりて心とつりて心とつりて
 云これ事よめありて心よありて人耳目鼻四肢と取く
 云とつりて其甚道一とせん其己にありてありて
 それ仁者天地と一身と一天地の間乃万物と四肢百骸と
 云今の人これ一身と思つて一ありて取きて云とつり

またいふことこのおもしろ物とえてもいとせむもせ
人の一身の中にことごとくともありの親切ありて人
をよ通も夫人ここの四肢百体と見ても凡皮むつるま
愛せもともうこれ疾痛快樂その心よ切ありた
手足まひせむる人か人のこころつてこそをともう
さゆ手足我のありて疾痛ありてあらざれば是を不
仁の病といふ人の物我のまよひありて他人の困苦も其
心とことごとくばあそくとも聖人に至神也故よ天地を文
母といふ民と兄弟とを不仁人父母兄弟の困苦も
よここの四肢のこころもひのぬも恩と不孝者あり
同今の時天下困苦の人多しこれを以て一と其心と累
さ快樂のいふはるるむむう 去我仁の時なり天下れ

主は天下れ困苦と以て其心とつてさうむむある困苦
さこの仁政あり國主郡主皆さうり士庶人に其一家
の困苦もあつる人一是其分よりして仁の初めあり
異なり義也仁と好て義を不孝者に國郡のまよ
て天下ともくりんと紙彩ひ士庶人として國よとて
さうり紙彩と却て悔とみざり仁の累とかなと者あり
あて不知なり
一心交同古人云念慈恐與不慈便見有德無徳とこれ
小徳の者其事なり 云有徳ハ見兩大なりわのせ事
うろくして心まよと好と好なりさうり心よ真樂の
可なり世同の好ひなり一人の心をさうりていかりあり
道徳乃樂と不知して欲ある者と以て見る時念慈

の徳也さうこれをもくをのびてく公を見り

一 吾人徳とさん事と思つて目くに善とせむの

益とせん一恵換と目くに善とせむは日くか悪退く

る一は是陽長とる時の流消とるの理るら久しと

とてくしは善人とるくさるんや名は実の暫也又

善人の名あり一実あり名ありを徳といへん

や利より者義とるみと義をまよ者利といや

む天理人慾をくはくあなり

一 王者の天下とありら終る時の王城とく池

堀るく要害とて是氏と保して王より徳治遺風

と見一武家の代とるりてあてて天下とく

故よ力と以て有るり城池とくく一家と守り

るなり民とあめして不保是故よ力養る時をり

一 朋友同門東よ一年貢十下りもろさああり然れ

も民盗とす者多きは何もや 云是も徳善の政と

ともた不足とるりのなり日本もじり一農兵なり

一故よ皆十代貢とく何と十一のろさる用とま

しるりのなると一飢寒よ及て盗とともん人の

常なり民のくたれなくくはと盗とたり

しるり一政がく教なけとろくかしくん

り一はのたも貢うく地ちうとくを束くの子身や

盗ととるもの者なり知行をえ人のみろく強盗血

とぬじ者あり況や民と信長とる時に乱世の端と

とくくそのや

一 孝友同思難慮カキコトモ々々々々カタカタカタカタとて割カキリ々々々々
云同難の二字と妄マダシとて思慮シヨリの終タテへ々々々々カタカタカタカタとて邪ヨコら
うらん程ハカの云人の活物カウ也動作カウあり々々々々カタカタカタカタとて思慮シヨリ有りシ
邪ヨコと剛コウく時トキに徹トスもあつ々々存ゾウと則忠信チウシンと主ヌシと々々々々カタカタカタカタ
その徹トスに妄破マダシヤなり思シヨりもろく為ナリもろくもろく寂セキ然ゼン不動フドウ
ありて感カンして天下テンカの故ユに通ツと今イマの人ヒトを己ミの人ヒトと欲ヨク芳ホウ
のまマり故ユに思シヨりて天理テンリるルとと動カウくと義ギ理リるル
思シヨは尤モトに皆ミナ妄也マダシ妄マダシ乃ス主ヌシと々々々々カタカタカタカタとて其末シノヘと紛マシ々々々
とを却サカしゆクとと同難ドウナンと々々々カタカタカタカタの念ネン又心シン上カミノ累レイと
まマととトなり々々々々有ア念ネン念ネンももに志シとて徹トスと思シヨり入
り々々

一心友回居易テイイミユウ侯命コウメイの義ギ々々云コト富貴フクギ貧賤ヒンケン安アン靜セイ患コン難ナン

死生シシユ壽ユ大オホこれ命メイ也ナリ侯コウの客カクとあり々々々々カタカタカタカタ
く、然シカドりく安易アンイの地チに居イて天命テンメイの客カクとあり々々々々カタカタカタカタ意
也ナリ死生シシユも則ス客也カク故ユに朝アサも道ミチと剛コウと夕ユフも死シと々々々々カタカタカタカタ
るルのノより正叔テイシャク云コト吾日ゴニチ履安地リンアンチ何ナニ苦カラシ他人タニ日ニチ踐危地センキチ此ココ
乃ナリ勞苦ロウコ九人クニノヒトの苦カラシと以ユてテ々々カタカタのひヒとトは々々カタカタと惑マシはハ月ツキに
さうサウ死シと行ユクし事コトと求モトむル命メイのノり々々カタカタ不フ知チ柔弱ユウジュクの者モノ
はハ膏コウとトはハ憂ウ衰サイし勇強ユウキヤウの者モノはハ争マシりてテ是ココロ亦モるル
してと々々々カタカタカタカタのノり々々カタカタ事コトハハ一ヒトなり

仁者其言也ニシャシノコト詔言シヨウゴンて不行フコウの虚也キヨ君子クニノヒトの犯フるル不フなり仁實ニジツ
理也故ニシテ仁者ニノヒト言行ゲンコウ相アうウみミく虚キヨるル其言シノコトれレが事コト
事コトと難カシらラ不フ也ナシ好人コトノヒトの言コトもモくクなりナリをレ乃スはハ事コトのノり
と々々々カタカタカタカタの故ユにその恥チ々々カタカタ其仁也シノニジツナリとト家ケとトり

かり剛毅木訥乃仁よ近とし質朴遲鈍して物よ
居ると終よやまどして究とるをわれん也

一君子之道ハ貴隱貴ハぬくことせらる也ぬくとせ
るハぬくとぬくと其意なり君子の道ハぬくと教
てくは事なりとて言語ハのくはたすあか
隱也君子くはさすもくは究せると只入徳の人
黙しと知

一鸞飛魚躍也鳥魚ハ無知也故よ天機よりぬく人ハ知
あるなり私ハ天機とわく程子云必有事勿正の
意也と必有事とハ人ハ人の性命あり性命ぬくと
ハ必有事也勿正とハ私ハわくぬくと也人ハ性あり
故よ深く天機よ通と活潑と地なり

一心友同佛氏の死と説て生と不説孔子ハ生ハ言て死
と不説儒佛のぬくと不ぬくにわくこと云 云死生一
貫也孔子何と生ハ言て死とのこと終りや人の死と
同ハ事ととて末よ感あるなりて其幸ハ遠と
る阿ハ末とのけり知ハ理と教終り也聖人の云よ生
死ハ一事也人の云よ晝夜はことごとく晝夜死
生一貫なりて二のけりといハ告人の晝夜と知く生
死ととらるとは晝夜も亦不知也と云ハた疑はる事
者ハ古今不惑乃常にその晝夜の民ハ生死も亦
つくのけり佛氏ハ生死の理よわぬて生死と怨る
らぬよ生死を説くやまどして聖人のよハ生死の惑るけ
るもいともぬく故よ死生は不説和漢ともハ二千年來生

死は恐動ぢれして生死乃差と見てさめたる者れ
るり異学の惑よ居て惑と解じと後爰中に爰と見
るゆゑ一聖人の道は日月の明かりたるゆゑと
なりくことと事なり故よ孔子云予欲无言天何
言哉四時行焉百物生焉顔子默識して辨論す
愚かりり

一理といふは氣とのと一氣といふは理とること
はくまはれし言ひの事とありて道とい
ふ時ひの事とこと一理氣一体の名也其大よ付
くは空虛といひその下付ては隱微といひ其妙用
付ては鬼神といひ天地位一日月明りよ四時行つて可
物付ては道といひ其真の寂然不動を其身

至真也これを未究の中とらふ天下た本あり道は自然
して窮まりとて大陰陽の度日月の寒暑晝夜の
常ありて極めして太極の理也中庸乃名わりて心法
の受用とてありて形ありて見へ
不究不動者物の根と成体とたり本の根土中
らけり礼實青紅の爰とると其根土中より出りて
化やび人の背不動めして四肢作用の体たり万事皆
り道は寂然として不動隱微めして不究この故り
天下の根本也物よ体してことと道は不動
の形は不動なりと至神至動也といふを
してありて然るなり

心法は心の向とらと信じへ一向不実なる者自然

ころるるり孟子性善とつる善の徳より出るの也
 一は邪とせむ時誠とつる存と善とつる誠とい
 ふ皆性の徳なり一体異名也誠則善也善則誠也
 今の人心の好む向ふを利と欲とわたり必しも利欲
 と主とせんと思ふれども自然は利をおもひと欲をほ
 みのと費とせんとしそらるる善の向ふ不実なれり
 天と以て根より固有の徳也とつる志の向ふは實
 らざるありこれ思ふ時存と忘る時つるさるる
 二まを用ひ力とけつといふも存善とつる若くは実
 徳と好む邪とせむは誠自然にまきて善行つる一是を
 忠信と主とせむといふ忠信外より求め奉てらるるに
 わくとならるるの至也今人欲をせむるは忠信を

心と起して存と客來のこころ故に程子も不之東
 不之西是中也と東西よりゆうる中とつるわくは
 東よりゆくと西よりゆくとわくは中とつるわくは
 中とつる中也

一子友同一陰一陽謂之道継之者善也成之者性也

云々時より動して陽生一時は静めて陰生と動静を
 時陰陽ありひは其根とつる大極は時またつると大極なりと
 然也故に是を道といふ陰一陽はしてや中より成継といふや
 時に四時行はる日月明りたり善ありたりとるるつる
 造化の流はると見えん若かり山下に泉其始あり
 子よのありはる清濁とつる中とつる中間ありとるる
 そのわきの本源の水とつる清濁のあり

本ぬ源はよみうると結びつるものと清とんんあて造
 物者人と放して人の性あり万物と成して万物の性あり人
 天地のちるる物は一陰一陽の理合して明德備り其
 性よとてうのく動とれち仁義礼智の性ありて善也性礼
 徳を考ふ時に不仁不智不礼不義ありて悪也水の中間清濁
 の異ありふとて天の無を善欲也故に理氣のれり事なり
 して四時のやうとて人の有を欲するやねよを法するも
 のいれやうらあり聖人以下人過るるもあつてとて
 らるる言とて法を法と天命の徳よとてよ受用あり
 人公天理よとてよと道とを則一陰一陽を道とてよ也一
 致也人幼より言なる者あり幼の悪なる者あり氣
 稟代自然なり幼の悪なりとて仁義礼智の性あり

して人となりてありてある者一日を生へてと水
 めこけとてよもあつていつてとて水の性善也よ
 らるる水の性よとてとて水よとてとてとて
 人の性善也とてとて悪も又性よとてとてとて
 亦子の時よとて善悪の名なり後来めとて事れ多也万
 事あり終よめとてとて聖人也少くめありてや
 くといある賢人も多くめあれたる力と用事事勇力一
 し教するの教年一とてとてとてとてとてとてとて
 人生きて終るるはとてとてとてとてとてとてとて
 性よとてとてとてとて

心友同樂める君子の民の父母也その一徳とて君子の

ことらにありてはとより君みればぬのじきりらにの事なりそ
 や 云程みえ樂の理よきと樂とことと此意味
 まいられし不知なるを音樂とまよりと一淫聲
 といふれども同じりあり一正樂といふらる人かてしめり
 一うらひのまひはく後面白くありまひて理と懸
 と事明くされし自然の理にきこふとまのじりの
 かり音律車よ金と自然よ雅樂とぬじらあり人
 と欲よまことと樂とありて理よきとをばしめし思
 つう道とまこととありおたり君みたり見れし欲よまこと
 とい皆若かりとらとそこの一みと思ふらとらなり雅
 樂の神氣とまいてわぬふわらふとて淫聲なり
 神氣と害とらものとぬらあり

一心が同惟聖人然後踐形といふ人道と盡一得也といふ
 といく 云人かみ行の秀氣神時の舎天地の徳也と
 かりおまよふとくうふと人かとそとぬとら一聖人
 わらつれし人の天地の徳とらととらなり是れと踐也
 云文同孟子云民為貴社稷次之君為輕此言其抑揚
 ありは似たり一國の爲よ一人の君と置して治しむる理
 ともして君一人とらの一國めて一國の人氏とら
 一むら事一の天道よそしける義と明らんとらなり
 云まより又先天地の理也天地のけりけく命あり人の多き
 と民といふ山川國々の神氏の爲よ財物と生は是神二
 いは民よ次の理也民は其本と執しとらと祭と祭より
 人氏の多とられと流るものなり是れら故よ君と立は星

一國君といへば民よ政ものも也孟子先天の理よりして
より治天よりりつ一時の君の上よ位して威重なり民
君よとくよ者也君民の心は社稷とくくありて祭
まり是後天用とるもの時也

一心友同いめ一聖主敗員君史官と置して主君の言行と物
れとして天下の善悪と記さしむり終りておしむる不
終いりてくく治とくく終のころとくく終とくくあり
のころり治世悪逆の至無道の君は時を威權つて
を悪と後世よ傳へんこと成恐ましくおと記と事と
をせけいといひつる事やとれ勢也とくく終とくく
とありといひつるの悪名のとくく又悪声とくく人カ
めに及いりつる何をや 云鬼神ハ福善禍淫なり

一への聖主賢君ハ天工よりりして史官と云はつり是
遠化と眺らつるの道也人道よ史官と云はつる時天令乃
史官ありて善悪と記さり 向天命の史官其心よ知
とくくありや 云其心よい知ふとくくありて天と
其時其時の善悪と云り或は時と過して生るなりと
其代の事に違はるものあり皆天乃鬼神乃福善禍淫
と云はれんことくく鬼神ハ勝つとわつと故よ人カと
はりありてへくく治とくく悪とくく者いふとくく記
よ史官と云はつるに君は理と云はれんことくく善と云は
と善をいふことくく悪君と云はれんことくく道なりと云ふ
知たまふことくくあり

心友同自述を有へる事 云自述する者必ず死す

公あり或は名をぬめりうぬ也逝しして晝夜遠し
 ち生死たり夜よ入していぬ者何の公あり何の名あ
 りく自遊しんくもや死生天地の常理也道理よ
 ぬくしく始終しる者いぬ也じう程伊川病て死るん
 くの郭忠孝しと云者僅て見よ伊川目とこらて黙然
 たり忠孝云夫子平生の学よ不冷剛よ用へ伊川之道
 着便不足と忠孝いぬと寝門と出さうに伊川率以
 回遺言といふ事ハ有へさう云死去人れひ置へさう
 とハ半強る人々の公よあり時節よさうハ子孫の位よ
 懸義よ害るれすは辨よさうとへさうの死者何
 といふん但一遠方へゆく人の留守居の及まらさ事
 成の公をくさうと事あるありはめとありは子弟に教るの
 言ハ平日の言かり遺言よ非也

一心友同より親よ與一主君よとびとて出ら何の義
 を云非礼の礼非義の義大人にさうの教也今俗
 非義の義と義とをわやうりてもせめて義と二ひて
 なくさ可也あ其中間名利の情よあるとして見
 ころよお也盜賊を卒より不義の者なれは義理を
 思ふ者よわらぬれもその中間の難と去くあころと
 何を情よまるとるれなり同一を親義と行て去の與
 とんころ云らる親義と行て自己一人義と行て去
 へ何ぞ人といひてあ其家と危く其國とみころん
 や故よ君子いらく親ととらんとく先よりえくぬる也
 一心友同程子云誠のくと財とわいび者ハ善ととらると

不格と賦にけしゆされとも儀るる者ありんや 云名
とぬて賦とわくはと共に行ゆれ儀るる也
回不仁のり共とくも者も堂寺の佛事よ金浪主
おしまさるハ何ぞや 云云とこし不仁も公々礼也法生
の儀事と位とらも公力くうと也くうと故よらうとこ
用うと知一

一公友同易簡略儀とお迫くう 云大名異なり重
人の教、易簡の若ありて略儀と示う一人の略儀と教
時の礼儀も礼儀とる時の驕奢生と驕奢なる時の物文
花かへし事とを一事とてこの時の儀と物文花なる
一略儀のくわら史鳥帽子直垂らこの刀ハ五位無位
の礼服也此礼服文也定れぬと用るるや

見たりて礼儀違一ぬ下者むいかにこの時の意
ゆるよと教と用ひ義と盡とくは候なりこの
多く一勝なりハ大中小の脇指刀のうへ用へて
平生にらいつくまむいして内外とも事多かれ
軍陣よ大かき事もちの也これ礼儀あり人道
つらうて易簡なり善なるにわくもやハこの
まわり下地のものいふとをり上げせられく
して上下と一旦、易簡よ似れた略儀も礼儀な
くれ小袖上下教と盡してのありをいへ
これらりのことと脇指とた刀とて二勝
よいんくも候るれも國容軍容よりして治道
長くもと戦陣威ありとこの

中腸指小腸指のけりけりかかまをくしきつひえくさりあり
あま暗よりりて奢ラコリよるまを人の礼儀レイギホロさしひし物多
事あげさめあくさや事さげさ時人の精セイ力及の
う心直律儀シヤウケンキリツギなる人とした偽イカリなるさるあさつとあおのね
め聖人の易イカン簡の善イカン配イカンして人道の礼儀と制セイ略リョクと戒
く多事と少事と偽の事と源ミナモトと少事と戒と成と成と成と
ものなり

一公友同聖而不可知之謂神也
聖人あつよ水とといく
聖人あつ神明の徳あり
改徳あり事聖人をつく
不知終也空中よりなりき物と生
とる鬼神の造化サクラクなり天地をくもくいさるさ物とん
しじらと聖人の神徳也八卦と畫シヅクして六十四卦クワと天地

人三極の道とありり万事万物の理とあり一教國とあり
灸針キウシの事と作一律呂管絃リョウクンケンと真マコト一かと皆神明
の徳なりていさるさるも也律呂ありさるものなりてあま
ありの役タテマたる樂々ガク舟車フネクルマとありさるなりさるなり
て五經の琴コトと作く南風ナンフウとさるひ終つり琴コト曲キョクとて其
悉シツありとつた賢君良相ケンキョウとありさる事ありさる事と
伝わりていさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
はかりと此と鬼神の作用なり人をも鬼神の作用と
ありとことありとと幽明ウメイ人鬼ニギ異イコトなり也聖人あつて
神の效用カウユウあり鬼神の徳ありさるなりさるなりさるなり
道とにさるさる神カミ也又聖人のさる神人の位なりさるさるさる
さるさるの神也又聖人のさる神人の位なりさるさるさるさる

伏羲神農黃帝堯舜禹湯
禹王
文王
周公
孔子
神

よあつともしりあつともし

よ者ありて孟子以後の諸君子皆言の失ありし
つり際といふことらん 若ては皆降といふこと
賢る方不の後世の学者の及ぶこと不也と言の失とわけ
く先人の罪といふこと易く徳と取て身より事する
うう予う言ひこと今の人乃惑よ事あり今日受用
よ益ありた時去て後人義福よなり大率承るるむ
ぬ、実儀あり人の良心と感究と善を真起する時の
聖賢と降といふこと其中間の奏者也世に物事行志
降多しといふ人の良心と用いことわつと降多しといふ
そは能とわけ世のそも者と相とつたり先人の徳と
ぬ一今の人の善とわつが事あること其議論可也と
いへるうりて人の善とすることよ者也

一

賢不肖生付といふことと治乱命といふことよる君
相志と立く賢と求め其任よあつたりあつたり
はとつたりつとあつたりとめよ知れを國とのつと治
之と天下小人と以てしつとあつたり人の靈なり
君相志といふことして君子の心術躬行とつと時士
氏にたよるよふことと他とつとよる其用よ君子のみ
かりこのぬよん材と成といふことよる
とつたりつと王者の徳よ及んた志立時の善とつと人
よなるよるよ大よ益ありとつと記さるよるよ益あり
よとつたり婦女の知識るよ赤子の扱ふことよる

義命

十五

其敬の意とわらされ先遠の況男子に知識
徳あり民人のよくもつたよと慈仁の徳あり保
うへへ

一時の急をいして交易して道に従ふる君子は中庸也
時の急をいして交易して利は随ふる小人の中庸也其知の
明一也只主として其異なる

一心女同孟子言と知つたり道そのよとよく重く之を何
そや 云予い予が言はぬのよ公定る時を言重くして
舒なり不定の時を言急して疾同奉の急なり時
い 云公定る時の急なりと之よ急せよと只其言と
やうなり重く舒をいして分明なる者也其奉の時を疾い
急なりと急なり急なり急なり急なり急なり急なり急なり

兼道

一公女同聖人の言はんとすくは意い 云聖人の言
の師也其言は我よ教る也我るをくをいして受用する
とと故よ畏る天より命して師と今日の日命
は 舜曰四海困窮天祿永終と聖人の言はんとす
甚恐るるなり 同大人とおもゆくと大人を在位の今
在位の人不徳めて殺るわらふはと恐るんや 云天命
して我を命してよまじ故よ畏る畢竟天命と恐る
なり 同天何ぞ不徳の人を命して有道の人乃よまじ
ひや 云勢の自然也自然の勢天命也故よ君子は自
然よりつくりし小人の力と以て自然よつくり災との縁
也故よ云小を以て之よ以てつくり災と恐るるもの也と

海しゆ大よ敵とく〜是自然の天命をなす
 大と汝し小よはよる天とよのび者也と人よことには
 とよさうへ易しとよさうも恭敬しとほりし者義理の
 ち成以てなり公よはよるを〜其義理とぬ
 のひく外の勢と高り也將軍家の禁中よつるはよ
 の〜將軍家の天下と我りの〜とよも及びと
 と〜天照大神は皇統めて三種の神意め〜海し
 天威のよ〜前あり故よ代く乃將軍家とろそ〜
 奉り終事わ〜是利家の盛世の時い〜將軍
 家よ〜せら〜公家を〜眉
 眉めとる〜天と樂の道理と〜海し
 よ公家の威とげつら〜天罰めは是門家の威

ち〜代々公方〜名斗めて公家
 弱る〜氏家の強大と〜公家の
 弱る〜後世の〜事
 今い強大の人微弱の人と〜もて眉目と〜
 し〜事也其礼と氏家別と〜人ありわ〜
 一よ友同〜人公人欲也〜先生は解い異なり
 云古語と解〜人の見えあり古人の主意よ叶〜
 ち〜叶〜賢也〜
 公賢と世と平〜人欲よ此と大衆の存〜人
 公惟危〜人欲るは危〜思〜
 形氣の公る〜公あり聖人〜飲食を
 男女等〜形氣われ〜則あり

則ち礼儀也人を欲ありと云ふも礼儀の天則ありと云ふ時
道も則ちよきことなり時人欲となりて悪なり天則を
破りて聲となり真も外自反慎獨常に存心せよ
と云ふも易一君子のなることなり人の心
が不しと云ふ

心友同程子註も朝風通夕死可矣といふ死得是也といふ何
と云ふ云是字意と云ふなり君子天年の教と盡して無
事一終もあり我も事ありて死をともあり生も一事也
死も一事也君子の事として正と知と正よむありてなり
むも一是死得是なり

程子友同孔子曰死は死と云ふこと生と云ふこと
死とのけりとも云ふこと云々

かた人の心と知ハ則ち天を知也天と知れば鬼神幽明
死を眼前も明白也人として生れども人なるものと不知
も人鬼幽明二ありと故も目で見ざるのこして月を知ら
と疑ふもよきことりの学あり聖人の一事の疑ひ
をわきま一生の疑ひを佛氏を天下國家の用な
し故も一事の疑ひと不知幽明輪廻のありひあり
終身のうごひるなり富貴貧賤を天命の考造化は自然
なり此不同なりはこと今事と云ひく造化と地と云ふ
のこつと故も富貴ありて驕且吝なり貧賤ありて憂
あり安せらるる時を天地鬼神の妖怙とする者也
と云ふも事ありと故も富貴は道れと云ふも人
貧賤の道ありと云ふこと云々

一 公友同良其背如何 云々 云々 不動無敵の如也
 人の身中目の奥耳の聞口の味鼻の臭腹の飲食の
 の取是れ行も敵あり 敵あり 敵あり 敵あり 敵あり 敵あり
 一 故よ一 身の本より一 身の背の不動の如也

一 公友同良其背如何 云々 云々 不動無敵の如也
 人の身中目の奥耳の聞口の味鼻の臭腹の飲食の
 の取是れ行も敵あり 敵あり 敵あり 敵あり 敵あり 敵あり
 一 故よ一 身の本より一 身の背の不動の如也

一 公友同良其背如何 云々 云々 不動無敵の如也
 人の身中目の奥耳の聞口の味鼻の臭腹の飲食の
 の取是れ行も敵あり 敵あり 敵あり 敵あり 敵あり 敵あり
 一 故よ一 身の本より一 身の背の不動の如也

の忠は然と感一と甚雷あり一とあひま

一人と交わりしをさるるは文とてして礼あり

とくして文過か奢也とありて文の不足と儉と

の人の交わりありて文とてす故も礼の事とて

と用者有は礼と廢して儉と思ふは誤り

一心友同和漢大勇者あり勇よとてくは君よは勇に

とくはん 云氣質よはる大勇も死とてくは物

勝し中ことしに君よは勇よ似たりとてくは

らと君勇者道よ志ありて蓋蔵とてくは

怒りあわれんをよまうとてくは

みる感も一知に勇よ公の徳也故も君よは怒り

やうとてくは小人の勇は氣よぬるぬる

とくはとてくは死一と死とてくは義よ死とて

わの君子の義よいさめ死とてくは

かことやあまうとてくは

一心友同世同は義理順とてくは皆利也

一音信徳来振舞とてくは是とてくは

利とてくは身よ害ありこれとてくは

理とてくは思ふあやわれり是とてくは

みとてくは云とてくは順儀とてくは

を理とてくは時とてくは失て微賤よ

とてくは親類の末とてくは

長八

二

かり是等(ニシテ)のわら(ハ)せざるの利也(ハ)なる(ハ)快楽(ハ)分(ハ)
 非(ハ)換(ハ)りて(ハ)益(ハ)を(ハ)なり(ハ)こ(ハ)事(ハ)る(ハ)れ(ハ)今(ハ)の(ハ)義(ハ)理(ハ)取(ハ)極(ハ)の(ハ)
 人(ハ)大(ハ)方(ハ)此(ハ)實(ハ)と(ハ)の(ハ)捨(ハ)て(ハ)り(ハ)え(ハ)正(ハ)却(ハ)て(ハ)外(ハ)す(ハ)る(ハ)也(ハ)
 思(ハ)り(ハ)善(ハ)人(ハ)の(ハ)名(ハ)を(ハ)り(ハ)利(ハ)を(ハ)る(ハ)也(ハ)異(ハ)なり(ハ)公(ハ)の(ハ)仁(ハ)義(ハ)也(ハ)
 弊(ハ)づ(ハ)こ(ハ)て(ハ)不(ハ)忍(ハ)の(ハ)中(ハ)を(ハ)り(ハ)る(ハ)也(ハ)義(ハ)理(ハ)され(ハ)人(ハ)の(ハ)
 一(ハ)と(ハ)思(ハ)れ(ハ)仁(ハ)者(ハ)の(ハ)名(ハ)を(ハ)り(ハ)る(ハ)也(ハ)名(ハ)を(ハ)り(ハ)る(ハ)眼(ハ)を(ハ)る(ハ)
 列(ハ)は(ハ)あ(ハ)る(ハ)と(ハ)され(ハ)と(ハ)天道(ハ)の(ハ)真(ハ)加(ハ)の(ハ)叶(ハ)ひ(ハ)束(ハ)の(ハ)さ(ハ)る(ハ)久(ハ)し(ハ)く(ハ)義(ハ)
 と(ハ)和(ハ)し(ハ)る(ハ)の(ハ)利(ハ)也(ハ)不(ハ)善(ハ)人(ハ)の(ハ)名(ハ)を(ハ)り(ハ)る(ハ)也(ハ)九(ハ)の(ハ)時(ハ)め(ハ)て(ハ)飲(ハ)
 食(ハ)衣(ハ)履(ハ)器(ハ)物(ハ)家(ハ)屋(ハ)等(ハ)の(ハ)よ(ハ)よ(ハ)と(ハ)して(ハ)や(ハ)り(ハ)君(ハ)と(ハ)悦(ハ)ひ(ハ)
 時(ハ)よ(ハ)わ(ハ)る(ハ)也(ハ)利(ハ)を(ハ)り(ハ)る(ハ)也(ハ)思(ハ)り(ハ)欲(ハ)を(ハ)と(ハ)驕(ハ)奢(ハ)を(ハ)り(ハ)る(ハ)也(ハ)
 を(ハ)財(ハ)用(ハ)と(ハ)急(ハ)ぐ(ハ)り(ハ)ぬ(ハ)也(ハ)思(ハ)ひ(ハ)も(ハ)實(ハ)の(ハ)義(ハ)理(ハ)
 と(ハ)い(ハ)ふ(ハ)も(ハ)つ(ハ)と(ハ)親(ハ)戚(ハ)知(ハ)友(ハ)の(ハ)範(ハ)目(ハ)を(ハ)り(ハ)る(ハ)也(ハ)

見(ハ)ゆ(ハ)く(ハ)され(ハ)ぬ(ハ)の(ハ)り(ハ)が(ハ)如(ハ)く(ハ)と(ハ)い(ハ)ふ(ハ)も(ハ)實(ハ)の(ハ)惡(ハ)者(ハ)と(ハ)
 之(ハ)ら(ハ)も(ハ)と(ハ)終(ハ)め(ハ)ぬ(ハ)家(ハ)の(ハ)む(ハ)し(ハ)く(ハ)利(ハ)を(ハ)共(ハ)する(ハ)也(ハ)
 之(ハ)ら(ハ)も(ハ)と(ハ)畢(ハ)竟(ハ)ら(ハ)る(ハ)也(ハ)公(ハ)身(ハ)家(ハ)國(ハ)天(ハ)下(ハ)と(ハ)し(ハ)事(ハ)
 福(ハ)仁(ハ)義(ハ)よ(ハ)く(ハ)ぬ(ハ)也(ハ)君(ハ)と(ハ)悦(ハ)ひ(ハ)る(ハ)也(ハ)人(ハ)義(ハ)理(ハ)を(ハ)
 言(ハ)ふ(ハ)け(ハ)り(ハ)衆(ハ)の(ハ)公(ハ)を(ハ)し(ハ)て(ハ)離(ハ)れ(ハ)る(ハ)也(ハ)ぬ(ハ)の(ハ)人(ハ)乃(ハ)
 進(ハ)行(ハ)く(ハ)國(ハ)家(ハ)の(ハ)ゆ(ハ)り(ハ)事(ハ)目(ハ)と(ハ)り(ハ)て(ハ)待(ハ)て(ハ)り(ハ)
 一(ハ)朋友(ハ)同(ハ)佛(ハ)者(ハ)の(ハ)生(ハ)死(ハ)と(ハ)儒(ハ)者(ハ)の(ハ)死(ハ)生(ハ)と(ハ)つ(ハ)り(ハ)意(ハ)あり(ハ)ぬ(ハ)
 生(ハ)死(ハ)の(ハ)言(ハ)順(ハ)ぬ(ハ)也(ハ)死(ハ)生(ハ)の(ハ)逆(ハ)たり(ハ)る(ハ)也(ハ)
 公(ハ)を(ハ)り(ハ)る(ハ)也(ハ)死(ハ)生(ハ)と(ハ)い(ハ)ふ(ハ)も(ハ)實(ハ)の(ハ)義(ハ)理(ハ)
 晝(ハ)夜(ハ)の(ハ)死(ハ)生(ハ)の(ハ)言(ハ)順(ハ)ぬ(ハ)也(ハ)死(ハ)生(ハ)の(ハ)言(ハ)順(ハ)ぬ(ハ)也(ハ)
 之(ハ)の(ハ)理(ハ)也(ハ)歎(ハ)む(ハ)夜(ハ)息(ハ)と(ハ)り(ハ)理(ハ)也(ハ)祖(ハ)の(ハ)死(ハ)と(ハ)父(ハ)の(ハ)古(ハ)也(ハ)
 父(ハ)の(ハ)生(ハ)今(ハ)也(ハ)父(ハ)の(ハ)死(ハ)今(ハ)也(ハ)子(ハ)の(ハ)生(ハ)今(ハ)也(ハ)天(ハ)地(ハ)の(ハ)遷(ハ)化(ハ)

さつりてんこびあてのりり人の死生をまこめをさあ
死生常の理めして二ホくと故よ古今とりのり
一人こと不知ち大憂也己こと不知して人ともんり外
事と知りてつとびる感也己こと知く後天下は事数
るるに樂なり

一心友同落差とあかり物なり舜何そあ此のあ意と名
給よや云是元人の知とらよ此を教ふ衆のほとん
らり給へい也上古飲食は恙物へ多くいやと物なり朝夕
用る物も是はらけやとく損し一穀一人と次事よ多く
かりて天下に是と用るものりかゝ帝舜は時よ
りよ百歳千歳の間よ八目よ見しぬ事よを教ふ
衆へく後と山林あてて人民の難儀天下の凶亂の衆と

るるに勢ひあり天下のを。ふことつとあはらうと
りてい俄よとんを換り故よ山林ありと時よと
らりてとらり木地とわり飲食の恙と始め給り
同世人貴賤とらり我一代をくらぬのと子の代と事
らりてとらりと他人の代万歳の法と憂給する何ぞか
此いさなりや云父母のみとをさるいさのわり也とれ
た子不孝なるを其愛をくくかりありあり聖人の
民と見給りて凶人悪人といをめくと給りて刑罰よ
落し給りて政教のつとらる事とるけとてい鬼人と
りり給りて悪をめとびへい當然の理なり一人と換り
百人と物くへいこと為也天下れをくらう一家のくく
右の遠くとも一日のくく二愛の減やび時なり是則

天地のまゝのむかひ

一心を同費の字と解してめぐらしてせらるる也この語は

か何をもや へま上古よの財と改くめぐらしてせらるる也この語は

字の非貝の二字と合を如心と怨とせらるる也此語也財散

じら何をも民のむかひとせらるる也此語也財散

の義也用の廣とつらと意相と一財の字も貝の

あつてふいやの貝とめぐらしてせらるる也此語也此語は

らの貝といふ事の貝とつらととせらるる也後世金銀錢と

つてこれよりつらと此の時天下洪水とせらるる也五穀不足

よ法と作く交易は助けとつらとつらと廣く天下の

用とのむかひと君の意とめぐらしてせらるる也此語也此語は

賢君のめぐらしてせらるる也此語也此語は

よのつらとつらと在るやと五穀とつらと置て水旱饑

饉の極とつらと民とつらと用とつらと君の物とつらと

君の私とつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと

て用の廣とつらとつらと天下のたつらと君のつらとつらと

つらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと

とつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと

とつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと

中とつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと

造化の根とつらと寂空虚とつらと名とつらとつらとつらと

とつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと

義論 七

と云ふつゝ其神と云聖人の言妙なり

一 舊友同平の母方よりビシヤ親戚多しゆりうら
ちの道にサツ徳を福んちよまるとい餘多の者るれを成
らう、ゆり平の宗領ゆよめとじう人を親戚とくた
者とえくし一と思ひゆり 云是心と立の過と
じう一とと思ひいよむとびしてじよおよ吉言なり
じう一と舞の君雜鳴てゆそつしめく善とみゆ
一の何事そや人偏の交り通わつ也貴老アウ傲ヒ乃
親戚共くさ吉ととるの多とるゆゆへく
らまへくとも若老モシ傲ヒ乃親戚富フ老ラウのゆり
老のゆりまこといらん事老の傲少のゆり
といとるくくりくくといとるくくをいして

じり外の事あり何とぬくう若とる一ゆり
廣く人幸小親戚サイカイ傲少めて老のゆりゆり
かかん老是をまて一ゆり善ととる事と樂と法
老富フ有ユ人よわくともとい又貧賤とると志法
身めくゆりの人とい老の志と悦み程の事ある
一この事也衣服米麦菓子肴等りの金銀を少く
みりゆまよまゆめ海をせうつろくわえ物なり見
廻使言傳の音信も可也カと盡して法わとめゆり
てうらひる者あり波が那也とくびるゆり人皆悪者と
少くして令者とぬかり小善をつんくゆりこれ令者の
心と小人の人目よまへと人善るゆり人と思ひて小善
と目めゆりゆり君の目ゆりゆり小善と一ととて次

善も徳もいふれを以て来しものとよめんと夫大
 善いれよしと小善い目よ多し大善い若く小善
 ち徳よ進一と若く人わくさひくはらうん若く好
 ひくぬ也若くしつくるも時を大も小とかは若く小善
 と積く徳よかきとものも也真の人の善い徳よはれ
 徳よ善の淵源也徳の時の善を以て善くする
 夫光小親の母のさかひりて忠信の若く徳よはれ
 若く人々善よわくもや承りて令若くさかひり
 善よさるの媒と思ひ若くいよ公生とへくはれり
 て其はとれ公の樂とさる人よと人の悦ぶとわいぬ
 和氣家よさる一日くは善の樂とさる人人心
 服従とる時若く令り是れ儀立とのなり和して
 わくはみ孫必多福と受て易く積善之善必有
 餘慶

一心を同いたるとうむとよへさ 云義理とかなり又典
 義其中わたり 同いたるとり君とよへさ 云義
 徳と立る也君の義理よわたりは忠と進びる也
 云いへささわよとらわくもさつて義理を
 云よなり下は其義も感して公服と服とれを忠
 わり 同道とよよ義理と知よわくもさる今乃
 同よとら義理と不知何とや 云くはに経傳のよ
 義理と辨辨一或は身よのよと思へる今も真と欲し法
 よさるしとれ真の義理よ遠一故よ氣質のよ
 若く人の義理と知るわ及る若く多し一坐付義理

と知へし人をもそのよりしてをわするるものなり
 くらりしるもわりのいぬへの人の文をさげしもの貴
 賤の義理とわする人多く君一人一人と貴して衆
 人懐の義理と以て貴とわたり又一人と貴して衆
 人も保じて義理の貴をわたりも源義経次信の
 志の感し又くひるり君馬と合戦の家中
 は車一つととこころを引るものなり義
 理の貴也とるなよ人と死つりては侯と思つり利を以て
 別あり大將の不慮の死ととるも馬也十死か入と
 一車代へしともなかり二やと名馬と死人よ似てし
 らんより此大事も降してつとてとるものと名馬と死
 にならざるも用はまへる者よ降へる事と名馬と
 利と以てわする衆の恨あらん軍士の心をむくはる
 よ棄つても何のいひあらん故よ名馬の功をさる者
 子孫と親の代に忠ありとてとれと執司とわす
 りとくよめんと考す衆の由も主君と思ひし
 己の身のさるると子孫のさめぬ忠とんけつとももの也
 これを貴とゆする者もゆるうあつく思つり義理と行
 ねるけしむり孔子春秋一經の眞旨一の義理と立身
 への義と不知の夷狄禽獣也又その義理と上にとほじ
 への下義とほしむりあつて上仁とほつて下義とあつて
 る者あり其に眞るとして義をけしむり仁義を全
 徳也故よ君子の仁を必義あり 同今時勅司あり者
 と西

と名馬と死つりては侯と思つり利を以て
 別あり大將の不慮の死ととるも馬也十死か入と
 一車代へしともなかり二やと名馬と死
 らんより此大事も降してつとてとるものと名馬と死
 にならざるも用はまへる者よ降へる事と名馬と
 利と以てわする衆の恨あらん軍士の心をむくはる
 よ棄つても何のいひあらん故よ名馬の功をさる者
 子孫と親の代に忠ありとてとれと執司とわす
 りとくよめんと考す衆の由も主君と思ひし
 己の身のさるると子孫のさめぬ忠とんけつとももの也
 これを貴とゆする者もゆるうあつく思つり義理と行
 ねるけしむり孔子春秋一經の眞旨一の義理と立身
 への義と不知の夷狄禽獣也又その義理と上にとほじ
 への下義とほしむりあつて上仁とほつて下義とあつて
 る者あり其に眞るとして義をけしむり仁義を全
 徳也故よ君子の仁を必義あり 同今時勅司あり者
 と西

のこめしと辨へる者一一旦この事有少一義理と
もいふ人かあるのいふはゆく同傳して服らるる力
かり又みくそ縁ありく思一者のみ孫とてよりら
恩賞するくそ不計勅同なり忠功ありてもももも
らざる居と見ていづくわらうに思ひまう一凡倍の
習よしていづもいづくこれ人々をいづも一意よは君の
ぬのり一々事と知のるる忠義のむる也あつた
明君の徳と賞とらよ位と以一功と賞とらよ小禄と以一
才と賞とらよ職と以と晝夜の奉公よ小禄ありあつた
の尊公よ其子の褒養あり一
一心女同軍法よ敵のほはよのまもるはのまもるまもる
君子もなりとらるる 夫國君の死して其子幼からるる

敵將の痛疾の時り、氷旱ゆて不作一々と難儀
あるもあつたをいづ利とゆらあつたひと一残よ國と取と
りて君子いづ一人の憂と以しては利とらるる、甚不仁な
るも也君子の敵のほはよのまもるまもるまもる、不備不意、
この彼が不徳と討つとらるる一已有徳ゆて彼不徳也
己我ありして彼不義也故に討つとらるる人の憂と見く悦
ばば先不徳不義なり、何と以て討つとせん賊相討を
まは君子の軍かありと
一心女同治体の言あつたをいづも何とらるる治國奉
の根本もいづも事よありとらるる、其理と知るる
理のまもる治体は何も也、云治体は知也人君知明あり
らるるあつた君子の行ありて万事一といふ

一の志よりなり故より死も皆わくらるるあり
 故より君の孝と好し理とさつめをみる古今人
 情時衰よ違はるる也神代より人皇よ傳へ三種の
 神意と人君の御多うとと給ふ中めも内侍奉
 祈り中庸めと知仁勇とて知と忠とと知神の
 うれに仁勇其中めわりの孝誠好といへり文子の
 てわりの法より法よれいりて其知とさうの
 也人君の天職わりの人を忠とととと國主を
 國の父母より天下の主の父母也故よ樂める君
 子の民の父母也とより父母の公寛厚よりて子の成
 人とも力りめり怒とて人を親するものも
 人四の思ふよりよりよみ代公行の事わりの版の
 矣とるもも実をくむよありと愛は厚也君子は
 よとの事如也一伯夷叔齊とくくくくくくくくく
 清よ専るも人よとのく寛也怒るとして希也
 其仁をさる一
 一心友回いより上國とさあえ一國も中となり中と
 一ハ下國とるり國郡山澤わさゆらことハ國主郡主の
 ようくさるお也とる也ハ王代乃一任四ヶ年の法も
 理ありさる 云古の時勢とて不知今の時勢よ行ひ
 うさる一君とて仁政とて行ひ給りんくくくくく
 一帝舜の象と有庠よ封一めちひ代官とて
 一其國と治一め象ハ國を貢物めさる諸侯
 の言まるとめめめめめ象と不仁の位置代臣よと

一の志よりなり故より死も皆わくらるるあり
 故より君の孝と好し理とさつめをみる古今人
 情時衰よ違はるる也神代より人皇よ傳へ三種の
 神意と人君の御多うとと給ふ中めも内侍奉
 祈り中庸めと知仁勇とて知と忠とと知神の
 うれに仁勇其中めわりの孝誠好といへり文子の
 てわりの法より法よれいりて其知とさうの
 也人君の天職わりの人を忠とととと國主を
 國の父母より天下の主の父母也故よ樂める君
 子の民の父母也とより父母の公寛厚よりて子の成
 人とも力りめり怒とて人を親するものも
 人四の思ふよりよりよみ代公行の事わりの版の
 矣とるもも実をくむよありと愛は厚也君子は
 よとの事如也一伯夷叔齊とくくくくくくくくく
 清よ専るも人よとのく寛也怒るとして希也
 其仁をさる一
 一心友回いより上國とさあえ一國も中となり中と
 一ハ下國とるり國郡山澤わさゆらことハ國主郡主の
 ようくさるお也とる也ハ王代乃一任四ヶ年の法も
 理ありさる 云古の時勢とて不知今の時勢よ行ひ
 うさる一君とて仁政とて行ひ給りんくくくくく
 一帝舜の象と有庠よ封一めちひ代官とて
 一其國と治一め象ハ國を貢物めさる諸侯
 の言まるとめめめめめ象と不仁の位置代臣よと

よつろ換よ一終りり日本のつめへも國々の正貨物と
 と終りりて諸侯よむと一人都よあり一をあらせと
 む一り初國政の守介の下知るれ帝舜の遺法よ近
 一仁政と初るる時を秦の制法めて候とやめ守令と
 置て法るるはいつくは其守令をさそめりしは
 四ヶ年と終りくはわくは其守令をさそめりしは
 の任るる者るるは四ヶ年と終りくは其守令をさそめりしは
 其守令仁者めて國政をさそめりしは四ヶ年と終りくは
 益かろくは一初てつる二三年の國の民情をさそめりしは
 かくく教令も熱せりなり仁政を初とあり行はる風俗
 善よるる人よ守令は任るるは四ヶ年と終りくは其守令を
 守令は善政よ習く相継者ありさそめりしは一善一仁者
 へ己とまきんくはめりしは善くけつりもそめりしは

其用ひさるる人よ其徳功ひるる一は方時の同
 と渡して過るる中人よ中人よ恥とあらせりて
 一は四ヶ年と終りくは法をさそめりしは
 一心友同孔子の國とるるは其の終りり是凡人の事
 也あらり終りくは終りりては聖人の道と天
 の一善一悪して且遠一人考よ及りし事と恐る及ん
 すとせめりしは終りくは終りりては聖人の教よ俯して
 色よの就一先終りくは終りりては聖人の教よ俯して
 るの多くひまわくと平人を酒とさるるれよ及りし
 れやよ飲と思つりしは終りくは終りりては聖人の教よ俯して

聖人なりんばやまの飲みや人ももる錢も中よるこころと
 思ひつくり乱れと云へ酒狂めいあつとを男の中よるこて
 氣血とみまるといふるりんをこつて酒狂よつる者も
 乱の後也聖人此言平人として術して就くむのこに
 あつと才氣よく志高遠なる者ともまきこて等と
 あえと術めらる也聖人の礼と立治よくと飲食男女
 よる一術の術も是より実よるゆあへ一あつと術
 液近のこつとまろ高明の理よるこつと者へ虚見り
 らせと実まるとまろ是と等とてゆると云也実り礼
 ちる明と真のまろあつと終よ物とまるとくつと
 唐虞の事業ハ古今和漢たよるへつとつと異字
 乃後といへつとつと事あつとつと術とつと堯舜つと

見訪ひてハ一懸の浮雲の太虚と遣るつとつと
 以てつとつととつとつとつと用ひつとつと人術日用此中ハ
 ありあの故も唐虞揖讓三孟酒湯氏征誅一局其各と
 つと堯舜湯武れんつとつとつと

一曾子實と易るれんつとつと天地生るれ理也死生一
 貫めりて晝夜のつとつと病類と以てつとつと唯今死
 つとつと以てつとつとつと平生つとつとつとつとつと
 つとのと直よつとつとつとつと一貫れ唯あつとつとつと
 つと程子云一人の罪つとつと殺一辜れ不義とつとつと天
 下と得事もつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 つと者も道も志あつとつと一辜れ不義とつとつとつとつと
 殺して天下とめつとつとつとつとつとつと一貫と易る

の公に在りては義と為るるは力なり又名根力也
と以て死と云くも者あり年うるも公と云くも
易の正は日用の事と云くも也

一孝友向学士當下一念と云くも孔子の遠慮は
此の事と云くも憂有との終りなり 云當下一念の語異
孝の終り云くもその用ひやうの事と云くも董子云人
其義と云くも其利と云くも其道と明らめて其功
と云くも先其皆補養なり當下一念といふ可也
又孔子の遠慮との終るる則當下と思ひて云くも遠
慮也民の耕作乃業も遠慮也皆時よ先て
と云くも事あり云くもこれ父母妻子饑寒と云
及なり是則憂也士大夫より國君より云くも入る

と云くも也と云くも遠慮也天下の事也三年
の多かり二十年の多かり云くも凶年饑饉なり
遂て人民と云くも道なりこれなり無礼あり
天下礼を云くも有る事也憂あり云くも子と云
育つるも其公也と云くも習の義悪と云くもこれ
人々云くも云くも也これ云くも憂也万事遠
と云くも又通より云くも凶乱の事なり大氏の父母
て父母の道と云くも人徳と云くも人徳と云くも
名と云くも云くも

一心友同老老舜と云くも聖人の成るるもの也との終り
は何と云くも 云三皇の徳神明ありて行不測也後世及

義論

三

一 禹湯文武周公孔子皆聖人也といふものつくり盛衰
衰なり堯舜ハ聖人の盛りの當り終り故の後世作者あ
つといふは虞帝よひ及へり終り作者と聖人の事也
程子の云天地成聖衰あり一時の盛衰あり一人の盛衰あり一木
草の榮枯陰陽消長の理也天地聖人との終り此理よる
をいふは孔子の云 同志りる孔子の諸賢生民ありてより
此孔子の云 同志りる孔子の諸賢生民ありてより
語也万事名に候といふは過ぎる者也見ていふは
ることも也唯聖人の徳乃て言語文章の形容よ及り
ぬよいふ人の聖人の徳と傳ふるは孔子の徳也孔子は見
て知るものるは先聖よまゝと思へる理也此聖人の
くはりりなり唯聖ありてあはれ神徳なりなり盛

衰あり

一 程子の云 其微なる時よ止へり盛ありて後禁むる時言
一としてふも争ふる時君の惡既よ其の時に聖人と
いふは微なる時に止へり盛ありて後禁むる時言
氏の惡として止へり聖人と治めよむるも刑罰
を以て之を止へり其の惡を止へり一念の微よと
いふは微なる時に止へり盛ありて後禁むる時言
これかむるは微なる時に止へり盛ありて後禁むる時言
いふは微なる時に止へり盛ありて後禁むる時言
いふは微なる時に止へり盛ありて後禁むる時言
いふは微なる時に止へり盛ありて後禁むる時言

長

九三

此
ひ移とぬと思慮と名わじとせふ不可なり動静を
時也トコとく事ハ皆人事也いふるも思ふ心の
動也トコ心ハ人ハ欲とするの精神ハその氣交
氣同トコと発と耳のさく不同のさるるなりは是精
神とくさるなり故に動とくれば方ハ方とれば息と
呼吸トコの動とくれば動靜ハ晝夜の道ナリ死生ハ古今
の理也トコ心ハ遠近とくさるるなりは内トコ外トコは精神
とくさるるなりは表トコ裏トコの内トコ外トコの時トコといふも表トコ裏トコ
ハ欲トコとくさるるなり也

一 心友同士の何れを以てして天賦とせん 一人と云ふは
也トコ氏ハ五穀と作トコりて人ト云ふは婦女トコの如くと云うて
人ト云ふは五穀と作トコりて人ト云ふは婦女トコの如くと云うて

一 同何と云ふ人と云ふは事業とせん
云同トコ事トコして心トコと心トコ一トコ身トコと終トコめしハ貴君の如くは
心トコと心トコトハ凡トコ支トコの如くは心トコと心トコトハ武事トコと云くは
心トコと心トコトハ天トコトと教トコ國トコと云くと文武二道の士と云ふを
心トコと心トコトハ事也君子時と得トコとハ小人皆やハ云くは
樂トコと云ふのハ心トコと心トコトハ小人何と云ふハ君子と云う
心トコと心トコトハ心トコと心トコトハ心トコと心トコトハ君子自友敬謹トコトハ徳益
心トコと心トコトハ心トコと心トコトハ心トコと心トコトハ王トコとみくト云くは君子
徳トコと云ふは心トコと心トコトハ心トコと心トコトハ心トコと心トコトハ心トコと心トコトハ
一 朋友同者先年池堤と云ふは富然トコの飢饉トコと云くは
後の日損トコと云くは先水損トコと云くは氏今トコの如くは其功トコと稱
と云くは何と云くは鍛煉トコト云くは云平トコ存侯トコの

と見ざる功もさく勢もさくもれも若く極く功者
 ろく自命の才魁と究して人の才知とさくへんは
 功にたことわらんは不知放よろくと昔よはさ
 とちりり平人このまこと紙ゆりるのを後よん
 上よん人の見習とへんまことやとわりの也せり
 事と取次人のわやうりと見よ多くは同らひも
 せりちと京より京よりと見よ山の手事と
 よくは流川の流洪水の勢、河邊とよんて後合
 勢とつごあつげととれは後怖とわし事と公小女と
 したとこれとも竟の時よわらりて天下洪水の難ありを
 と治め平へつご人なり朝廷の諸臣より下民人の
 其功とさげつごんと帝竟の其才とわん

其功とさげつごんと帝竟の其才とわん
 けつごもつごも流つと鳥、若年なり天下懸の右よ
 かへつご人なりも是号、此誰と住とへん也も是歳たも
 もつごめつごりて不ゆとて命とつごりつごめつご
 ば才知とつごめつご其功とつごはと終よ成就せつご
 事つごと立てんよつごつごも也史治礼となく人仕
 よ高る者も其心空公つごしてこととつご人よつご
 ひ天下の才知と用ひ衆のつごりつごつごつごれ其功
 とつごつごのつごつごの才知よ自満つご
 一め功ありつごよわらりつごつごつごつごつご
 ち任つごつごつごつごつごつごつごつごつごつご
 しく助るつごつごつごつごつごつごつごつごつごつご

しつ終わししと知れひし西也世人の鯨の才知のしとく
まじりて見えしとくも竟其心のみいづるみたるを
て功あらしめし事とさうしやうあり

一書友の幼少の子れおわしひと見とわしと幸と
かたしといふしけしよ昔てしよふかひしとさる子と
今の志しとさうしとさる人むさうし脾胃とも考ふし
つらしり弟一戒じしとさるのあまもふりてはしよと
と見えしとさる書友いふめと問云ぬ僕とてしめを
しよあつしとさうしとさるものよさるしとてしよと
もまもぬ僕もたさるしとてしよとさるしとてしよと
むさうしとさるしとてしよとさるしとてしよとさるし
とさるしとてしよとさるしとてしよとさるしとてしよ

書しといふりのさるしとてしよとさるしとてしよ
悪行の根とぬ朋友よ相勝相争れ慢心とさるぬ世との
人とみらるし慢心勝心の了れ者ハ朋友の交り相と
しよとてしよとさるしとてしよとさるしとてしよ
心内の者よいづりてなりしとさるしとてしよとさるし
たさる也又朋友よいづりてなりしとさるしとてしよ
氣遣しとさるしとてしよとさるしとてしよとさるし
やとさるしとてしよとさるしとてしよとさるしとてしよ
志ハ内和たよぬとさるしとてしよとさるしとてしよ
胸中よとてしよとさるしとてしよとさるしとてしよ
少の時より父母奴僕の教へるしとてしよとさるし
父母少も不孝よたりぬ人のわしとてしよとさるし

長命一

長命一

一 心友同入徳乃功い道の西よりそし海久そや 云 精
 神の収飲らるる心より心へ一精神を収飲らるる事ハ
 言と信より心へ海より是口ハ好とそし一兵とれ心と
 いつり徹よ吉凶のくるる也 愚口妄言世俗の卑辞を
 少しとある人といふ言の亮し易ら事ハ吾人の通病也
 或ハ道学の善事と信よよりて信むべきことを忘れて多
 言なる者あり或ハ人をやむやよよりてそを信む者そし
 る者是とめて害よなる事あり或ハ心やよとて朋友に欺
 るとせひて人の密事とあり信とありや人の君子ある
 信よへし信よとて紙紙てへそと思ふ信よへし信よとて
 こく不叶也もあるとよ人の密事とていふて父子に欺とえそ
 父君あると其子と信よへし信よとて況やそ外も或ハ人秘

ことつた善事あるれらるる身の内より
 あり善事ハ心よきも人よきれれものあれも秘なる
 秘ありとて知くつて信よとて言ハつて人の
 益とるも己の心よへきとて黙するも志とて行のわ
 さい悔改めし後ハ善也言の失を物よ及て害ありハ悔
 とつたりとて信よの君子ハ是とてそし信よあり
 一 奮友同立之義何とて先立へそや 云 律儀を立下
 一言ハ約誓言紙誓言なくた人の見ざる所よとて人の心
 ひよももろくへくこと少し一同志ある者得くこも道徳を
 付く不信らるる心ありそとて人の秘なる書物を
 うる所ハ先人の心よきとて見よとてのこゆとてい
 つる其人を信よとてのこ也志らるる人ハ是也

事されいぐくううくもくもくかかひと思ひてうく
とむらうくくくくくくくくくくくくくくくくくく
後のまざる事ハ悪とたりくめく人ハ月ハ左換の堅固
るくぬを根おき其事ありても人きくく思ひて
人よくうられざる律儀の心を立定むくく此不やえは
人ありあくく

一 朋友同我等正仕者悪事となくとく救度也きく
はくく法度とまきく油断なく付付りまうるやうな
るハ不足のゆるあらん 云々方法なまひくく下知法よ
まよらして此悪事ありまうるまきくくくく思ひて
まきく念を入給く悪事いあくくまきくく後りハ
善子くくも困窮して家たへへく失方此法度たかき

一 遷りくくゆめぬくく此者ハ居くく世間の人情と思ひ
ゆりよんくくくく主人の所ハくく者ありまうるひ
ま主人の所ハくくく其故ハくく者といん
くくく思ひて此家とてくく居りハ横道者ありと
くせある者くく人よくくく此家ハくく
まも也くくく此より合くく悪て悪事とまきく主人の
初ハ此と何とも思ひて横道者ありとまきくゆりあのか
く悪事ハある也くくくく主人よく此法はくくまきく
まきく中人ありてく奉公よおてまきくくくく此
まの也主人よけまの何とまきく此家よく愛居へく思
へくくくくくく中人を終者よるくくくありとけ
て居へく家とも思ひて主人よくく思ひてくくく思ひて

友ありけしむるは其の功がよむるをたれて中も下ににけるもの也
一心友同野 拵り 舊交 予よ 同好り 座の 者れ びり する こと
入らる者あり 三線尺 八寸 一の 敷と 以て 子弟 相と する
さの 害あり 一 歎 連 奇 文 学 する こと 一 へ 子弟 相と する
あま へ こと 彼も 右 換の 事よ 意 願 して 形 ぶ 一の 事 也 といふ
よろ けり こと 也 一 右 換の 者 なる こと 人の 相 子 とも なる こと
あし こと 事 多し 大 作 の 事 なる こと 一 近 付 こと 一 事 用 なる
へ こと 漁 聲 と して こと なる こと 一 換 とも なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと
の 俗 樂 と 漁 聲 の 格 と して なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと
や 一の 害 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと
一の なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと
一 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと

換よるはしむるも其害淺し 彼者よ 歎 奇 文 学 の 事 なる こと
て 子弟 よ 近 付 給り 文 学 の 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと
く 同 学 同 輩 の 如く なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと
不 一の 世 間 と する こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと
く なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと
木 と 換 一 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと
へ 一 右 換 の 事 の よし 其 事 の 事 なる こと 一 事 なる こと
と 教 する こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと
よ 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと
一 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと
う 一 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと
ひ 兄 長 の 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと 一 事 なる こと

ひ朋友の眞定と習ひ仁と習ひ子の慈と習ひ
弟の孝と習ひ人への徳と習ひ時を習ひ故の時を
あつては又典十義を習ひをみるの受用也
自得とれ道遠より理義乃を習ひ味
の口とるころひりては亦るはうんやこの
とぬり悦ひ自己の生意を習ひ十一月一陽來復とれ定氣
のあつて是れ唯梅の香中よ春意とれり

一有朋自遠方來不亦樂乎とて三陽生とる時の天地
交泰と天下の春也自己の生意達とる遠方の人來る時と
近と者かへ見龍在田天下文明也君子はぬのひりたり
とるは是れとていととるは時とたよ進退とて自
己の悦と得とるは君子とるは是れ也

つり

一鳶飛戾天上其道と得也馬の天よつりつり力と
不風と氣よのりて翅とつりつり道遠とて自然と
舟の舞足のふむは不知の意也君みけ時と進て道と
りつりつり天運と然とてかりとるは其道と
天下に達とるのそ也故よ君子は私に福みり人民安く國
雷有るとて福とる也魚躍于淵は下其宜と得也
魚淵水よ道遙自得とてとるは其利と利と目と
有道の代り民と其樂とぬのひ其利と利と目と
よ善よらりてと化とるゆととるは君子は下とぬ
のひ小人と下とまきのひ或とるは不知と
とと道伴とるは是れ也馬の飛魚は躍とるは

集義和書卷十六

義論之九

一 心友同カフコフ小風カフコフ乃詩カフコフ之危カフコフ亂カフコフ乃カフコフききし一カフコフ浪カフコフ見カフコフ之カフコフ去カフコフ此カフコフ意カフコフ
 見カフコフ之カフコフ仍カフコフ在カフコフ也カフコフ之カフコフ危カフコフ乃カフコフ見カフコフ之カフコフ命カフコフと授カフコフ之カフコフ義カフコフ小
 巽カフコフ乃カフコフ也カフコフ此カフコフ同カフコフ之カフコフ象カフコフと云カフコフふカフコフ也カフコフ 各カフコフ小風カフコフ之カフコフ詩カフコフ云
 比風カフコフ其カフコフ涼カフコフ雨カフコフ雪カフコフ其カフコフ雲カフコフ乃カフコフ患カフコフ而カフコフ好カフコフ我カフコフ携カフコフ中カフコフ同カフコフ行カフコフ其カフコフ處カフコフ其
 邪カフコフ既カフコフ亟カフコフ只カフコフ且カフコフ小風カフコフハカフコフさカフコフしカフコフきカフコフ風カフコフ乃カフコフ涼カフコフハカフコフ寒カフコフ氣カフコフ乃カフコフ也カフコフ
 春カフコフハカフコフ東風カフコフ水カフコフをカフコフとカフコフ此物カフコフをカフコフ生カフコフとカフコフ夏カフコフハカフコフ南風カフコフ物カフコフをカフコフ養カフコフハ
 秋カフコフハカフコフ西風カフコフ物カフコフをカフコフなカフコフとカフコフ冬カフコフハカフコフ小風カフコフ物カフコフをカフコフ殺カフコフとカフコフ小風カフコフ乃カフコフ物カフコフとカフコフ害カフコフす
 をカフコフ以カフコフてカフコフ鬼カフコフ政カフコフ乃カフコフ多カフコフとカフコフ人カフコフキカフコフとカフコフ皇カフコフ小風カフコフ乃カフコフさカフコフしカフコフきカフコフ時カフコフハカフコフわカフコフかカフコフとカフコフ皇
 さカフコフりカフコフじカフコフよカフコフふカフコフりカフコフなカフコフんカフコフ事カフコフとカフコフふカフコフりカフコフ國カフコフ政カフコフ乃カフコフさカフコフしカフコフきカフコフ海カフコフハカフコフさカフコフらカフコフく
 凶カフコフ亂カフコフ乃カフコフさカフコフらカフコフりカフコフとカフコフ亡カフコフびカフコフんカフコフとカフコフ我カフコフ乃カフコフ親カフコフとカフコフ者カフコフ志カフコフ同カフコフ一カフコフさカフコフ者

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

介して我を向事行ふの由は憂るん切より一木
 をて時より我がく思ふ夫何と一とて言れ
 たるそと恨みたる詩也云用に言して陽る事わ
 てもハ入りてつら思ふへ一恨ハもへつす是ハ
 ひのときいふ事ゆわらるる言ふれいと云はる
 をうじといふす一人を恨も思ふ身女の家
 久一墓門ハ程子此説も一其詩云墓門有
 棘芥以斯之夫也不良國人知是知而不止誰昔然矣
 墓門ハ墓道なりいむ生一一人をゆせと事
 門だつ一墓前ハ以来田畠と成るつと謂
 里と成へつと城地と成つ一在無用此地をえ
 らひと安らふもの也良木なつ凶僻乃地ハは新

棘生一也一人心通るく教ふる時ハ邪悪生まら
 事道路をけはつと前棘生まらつと一是を以
 てた人ともいふわハなるといふこころ一
 人不善あるハ賢師良友と得く道義を助けたり
 今ハ夫らうらみられんてやハれと改めと思ふ
 かり賢師とあるまると良友と云ふんす一其悪
 とるも事とていひらたり墓門有梅有鴉華止夫
 也不良歌以訊之訊而不顧顛倒思予鴉ハわらう也
 悪声の鳥なり梅ハ聖木なれと墓門凶僻乃地
 樹もハ悪鳥なりとたりとなすも主人の性ハ善小
 一とて生付しつと不善人と居ると比ハ悪
 二習く凶人となすも也詩作て鍛煉一深く

義論

此言をせしむるも我言をかりり^三と必と禍災
来りく後思ひ當るべし梅といふとも甲斐を
るし^一とかならむ

心交向井田八九一といふとも公田二十畝とせ
まの貢北十一よりとかりし此軽重ある事^一を
いふと云上古乃ゆりつたる事^一代^一に^一乃軽重小
心^一を^一を^一の^一山^一野^一の^一地^一廣^一く^一て^一舎^一と^一事^一
安^一し^一舎^一今^一の^一出^一れ^一し^一を^一と^一の^一也^一國中^一の^一田^一地
乃外^一室^一地^一な^一れ^一也^一故^一ふ^一る^一田^一中^一の^一舎^一舎^一と^一わ^一る^一は^一於^一不^一
多^一舎^一を^一興^一ふ^一る^一に^一心^一何^一り^一て^一貢^一よ^一り^一と^一かり^一き^一に^一ん^一も
可^一し^一此^一舎^一の^一深^一き^一意^一あり^一室^一地^一あり^一不^一り^一と^一田^一比^一
し^一なり^一し^一を^一作^一る^一事^一ハ^一民^一迷^一惑^一お^一思^一ひ^一て^一作^一る

さるもの也^一と^一な^一れ^一る^一あり^一し^一を^一と^一の^一也^一と^一な^一り^一て^一ハ^一い^一れ
と^一かり^一入^一つ^一る^一あり^一し^一今^一ハ^一民^一間^一ニ^一此^一舎^一と^一持^一あ^一る^一もの^一ハ
百人^一乃^一中^一小^一と^一ま^一り^一たり^一なり^一此^一故^一小^一田^一小^一直^一り^一
い^一れ^一を^一ほ^一し^一し^一舎^一の^一前^一小^一つ^一と^一な^一り^一と^一れ^一ハ^一雨^一小^一ぬ^一る^一事^一ハ
本^一に^一く^一ち^一る^一なり^一と^一不^一非^一と^一わ^一ら^一し^一と^一なり^一て^一性^一何^一し
く^一なり^一と^一なる^一事^一ハ^一費^一多^一く^一民^一の^一憂^一と^一し^一れ^一く^一ら^一ん
と^一雨^一は^一目^一と^一か^一き^一ん^一と^一れ^一と^一つ^一ら^一に^一思^一ひ^一の^一外^一小^一ぬ
ら^一せ^一ハ^一と^一み^一又^一老^一く^一と^一も^一え^一も^一く^一用^一小^一たり^一と^一も^一日^一く^一此
氏^一の^一用^一と^一違^一と^一も^一事^一あ^一け^一と^一か^一き^一ん^一か^一し^一し^一備^一繩^一
こ^一も^一ひ^一り^一乃^一草^一履^一葉^一鞋^一馬^一の^一く^一り^一糸^一なる^一なり^一
ハ^一新^一乃^一不^一自由^一なる^一なり^一と^一朝^一夕^一此^一薪^一木^一と^一事^一
ハ^一也^一此^一遠^一と^一なり^一と^一ハ^一屋^一乃^一ぬ^一る^一事^一ハ^一城^一下^一小^一持^一る^一

此言論

之責て用をすしかるなりと云ふといひてさういふは此舎を
祀故乃ついに天下と合くはつたひをいふ事なり
云々此を民の地ある舎作るべき所ありてかたけ
て是れ能なり一民乃力小成りて事を知りて上
より起るる也是は田畠の計に依りて重なりて
天下は本ある云々家室の家乃文庫武庫米藏
物と先よりいふ事なり生業の事なり榮耀めく民
を養へりて成る舎をさす人必もはつと今ハ山野とい
はれ法の法なり此也小子若小田地をすすはつと
八作と取りて七家内乃衣食小ぬらるる俸は山野
小行と薪とを責めくうと助しといはれ山林次

小のきく方とるなりと云ふ馬乃食小なりとるなり
食すくく一日たをたくるなりと云ふ地とてさす舎
作るに費候なり一は故小凶年小餓死多し一餓死也
云々と奉り代官をすくはるるなりと云ふ死といふ事
食行にさするは中損とて死するハ皆餓死なり
是皆に改り法とてこれか成るなりと云ふ一在り
一乃乃費をたすめ凶年乃餓死といふ事なり
一乃乃一 同唯命仁改を行ひ終りて世舎を先
一終りなり 云々是より急なりと云ふ一舎を
余よりいふ事なり 國天下乃多き大君諸侯と
一いふ事なり 俄わたりては此勢也其上山林何を今
民用し不しく此なりと云ふ一世より大下存るる舎を

凡そ八竹木藪と云は盡く民いしく困窮し士大夫
 と強きなる者も先仁政を急よせ八教十年の
 後仁君つよにこり民の自然の如きぬへし夫甚
 しく民の力をさう。ふかしくと方さる事、彼は扶乃板
 の利わらふ事、小学し使事、八道りゆき、休息
 とし、ゆ事、小使時、八度号とといへ、恨と見之、誤
 道をて、民を使と云也、も本八仁君、良相乃心、
 民を子とする、此憂をさく、用紙節し、民を事
 とく、物とにわらぬ、此の心、君上、帰服し
 天道、順し、天下長久、あり、是を財、教とく、財
 八民わらふ事、と云也、向貞法、北十一豊年、凶歳、其
 わつこと、いさむと云は、と八一反北、田とい、孫百束、わ

道、十束を貞と云、い、八五家と、して、云、田、
 一、云、より、人、云、ふ、の、り、秋、乃、取、實、の、孫、五、千、束、わ
 八五百束と貞と、四、千、五、百、束、を、五、家、乃、有、と、云
 多、法、五、人、組、と、い、し、軍、法、乃、五、人、也、と、出、た、り、
 い、し、八、豊、年、の、軍、役、民、間、より、出、き、り、今、は、
 九州、の、豊、年、の、遺、風、蹟、と、い、わ、れ、り、と、い、り、い、ぬ、
 一、も、見、と、い、し、事、が、り、も、見、乃、貴、又、貧、を、云、
 費、小、を、い、し、向、今、北、勢、少、を、八、毛、見、と、い、し、事、が、り、
 て、も、財、一、と、い、し、一、も、く、を、な、く、と、い、し、東、を、財、と、い、し、分
 川、法、と、い、し、人、と、い、し、今、今、八、毛、見、な、く、て、不、財、勢、を
 わ、り、知、と、い、し、も、見、乃、仕、候、わ、り、四、五、万、石、君、八、七、八、万
 石、を、と、い、し、都、奉、り、ん、得、と、い、し、功、者、な、れ、八、一、人、と、い、し、も、見

義論

とらるる所わりの民の中めくは得る記者をえらるる一
万石をわりの毛見をほくささるる毛見出村の庄屋
昨夜よ近里乃者をわね二三人はく指抄へ下毛見
させ懐と化ちて群奉り出たれし頃見乃ついでし
そ下毛見乃懐と我見方とらるるゆれは切者八只
一同よちちへ一日殺とわらるるわ納も四を過さ
す妻乃も紀時とわらるる上下せしよりさ色 向
くわらるる相圖兵法自身此五合といふやうに百姓
よ毛見さるるは私曲わらるる 云此毛見ハ何乃年
間といふされは毛見よ此毛見乃内膳をわらるる世間が
みの毛見を入くる刀を流へ百姓毛見よ五物成わらるる八世
前がよこの儀毛見よハ四六七分ありてハまへへ

二四方はせは地頭乃損わらるる民此痛とハまへへ四五分
せと過へさなり彼此一物成乃費ハ有へしまへへ八世
間も毛見をえし大國大名も下されハ五六万石の郡へ
ハ二三百石取乃士十人と毛見よ出るなり供の者七八
ハありしよまへへ七八十人也馬をわらるる百人おはさるる
ハ一百万人殺一郡へハ西みてたれもわらるるわらるる
此荷物富がらわらるるは百姓をほくハ藁鞋新米つと
水とハ涙と入るる多し学とらるるのそあはるる農乃つとせと
せと用ひた者もまへへ免乃よまへへと新紙よ日全
くしよし書とわらるるハ此入用又費なりわらるる直は清く
とらるると免此外よ毛見の出し米五六分はは
まへへまへへまへへまへへまへへまへへまへへまへへまへへ

弊一物成ハ有る一相うるはあまのいども同ノ風吹雨
やめていつ物のなりは世ぬまの民のゆくは西のうに
と思へるまこと七分めとうけのくまふまふまふま
れく成のまにわけどまうとありて氏速速と
つとこれのまは此とまは日とまなれて来是れ取
まらるる一は換又三四五分めとまふ一は
まらるるとかれ十二月めまもいそわらへて
まのまあ子の女事も成りてくわらへて困窮
まことまらるるまのなりて利をまらへて困窮
費のまらへてかりへて地頭と換へて百姓ハ一
くわらへてまのなりまらへて百姓ハ此道理
まらへてまらへてまらへてまらへてまらへて
換わのまらへて得んとして奉りて代官の目まらへて免
まらへてまらへて見のいれは換へてまらへて
まらへてまらへて見のいれは換へてまらへて
定免一は定免おれはまらへてまらへて
まらへてまらへて見をまらへて免乃まらへて
まらへてまらへていれまらへてまらへて
まらへてまらへて換は豊凶よまらへて
まらへてまらへて此道理をまらへて
まらへてまらへて私欲のまらへて代官のまらへて
まらへてまらへて代官のまらへて清直なるまらへて
まらへてまらへて不直なるまらへて不仁なるまらへて
まらへてまらへて清直なるまらへて
まらへてまらへて

義八冊九

問私欲不直ハ下ノわけ由 云関

ある所の不仁とて清直あるはまされり細きととも
今君のた先玉乃た先民此た君よ私欲不直の君
としむり私欲の代官は民すいひて免をささぐれハ
やかくつとて君なり私欲をさすいひをうけけ
免とゆるは不直おれた民大に困窮せし凶業を
しけしとゆるとかわりて毎事なるハ乱世はハやまされり
先君乃た先國の君なり或は彼不仁とて清直れ
代官をハ世間これとよとておえた下といふとの
己のまのあひをささぐるを以て清直と直と
て世間よなり代換は自満し身よとわりて免を
しむるは私欲をさすの奉ふあり免をささぐれ
奉ふとてこれり是事ささぐれと依依かくとて

やの決約とれハ世間よやされわるとて立身とて
右乃私欲不直れ者なりと大欲あるはわりの終ふは村里
の道民困窮して乱逆乃たとて免をささぐれと下といふ
なりわりの一の上をハに愛清直乃代官ハ今是と
下とて立身清く直れとて仁愛あり民乃た
を以て下とゆるとて私欲をささぐれと疑ふ也今此
世を替むくハ仁心ありといふ人ハかきりて民ハ
ゆるとてハかきりて民も困窮の世事ハかきりて
ハ世もみちの世とて仁愛清直乃奉ふハ民私欲
ねよ無用乃費なり代官を以て私欲をささぐれと
七とて私欲をささぐれハ困窮多さといふは不仁清直
の者ハ一旦多く私欲をささぐれハ民の世も多し

後ハ免ト大ふるこのもこの也此善悪の事なり
清直^{シキ}より一七つよく此後よく此代官と思ふ也
清直不仁ハ仕置よよくよく村里乃七處なる條
目返りや也

一剛直^{シキ}乃代官四分六分を同當とて百姓迷惑
高免なりといふを歩かりして六分を年貢四分と
百姓にすゆれを志い何一を私にせしめぬと
事なれば此四分六分を全ゆとて郷納ハ米ハ吟味
付ハ是ハ百姓の四分をとも打あをて一割とて六分を
米とてさしむるなり百姓乃得る分なり一年貢米
を何れをとも何れをとも食とてとつとと農具請也
志代ハハのとりとてさくのよハさや一向無理也

一山林ハ村里ハ山林を同當とて田舎かささる免
重あると云ふなり山林月々より清くハたす人々の
事一家屋をあらう田島と賣く村の体賣れかげと
かくりしけてさる人さやうがられハ免是非免をささる也
水を入金ハ田となり所をたせハ高となる、麦を田
よ作て百姓の食いさる所有思ふれハ四分六分を
の三免と出さしこかく取はくをともとなり強事と
と表れおき年々して田免乃ゆをたすハ借物ハ
平ゆさあさても用たらしさる借物ハ利とが、
ハ毎季借物ハさるてむを愈々極るけハ田地とさる
よ今、他領へさるて田十反持く者あり、二三反
つ、村の家をたすハ食を食いさる、成ハ其間ハ志代

官記しむとて、幕代に非といひ亦守あり成ぬ事ハ俄よれ
 と欲して免なきれども田畠うりて後あせハ二寸二寸五分
 ても昔の二三分のさうりよとありし作取よとせ又たその
 極よハたうさうさなり奉代官守ありて其路よあつて
 捨せられおぼせしむるも免なきとて免なきとてさうり
 一水田湿地として表すれす山林乃たさうり形由さ
 外ハハさうりおとあつりさうり此村ハ今とても十
 之二三を年貢よとて七八を得さすハ民立叫び
 此差別なきとてなぐて四分六分とせ得るも見すれ
 もやうとてははなすもとの也田地よ米乃有無なきとて
 らん志さうりハ催促してせぬれハ差ハなくして叶
 此外をさうりハ貴く出さうりやうり作ら助と成る

子をも年四とて奉公よ出し行さぬニ男子女子ハ永
 代人よいらす方とせられハ夫婦ハよらひかかると
 浦めもよく心氣叫むと力つられ耕作よ精と
 せられハ田畠いよく出来わらハ牛馬を冬ハ下直
 うりまよ直し買米めあつりおぼり借銀よとせ
 せあり田畠を賣る富人よとせられ民間よとせ人
 しとありそ法乃田地ハ村中乃よりいふよの家の
 百軒と有しとて二十三年後を賣るハ田畠ハ
 事御法度とせられハ作らハ力なきとて人
 むるさうりおぼれハ毛見してさうり此免乃
 行ハ此なりぬと多くとハの事よとせ
 一と砂よと測を埋むとて事よとせ

長命

昔より海りぬるものあり

一毎年毛見を入りて多きつて取人乃領内を以て
も百姓屋敷乃本屋乃銀ハ石をのりて其の
を食ふ小倉のとして居者をとくハも御
まよて他乃百姓也何とて其田畠を作り年
真茶と供するも思ひあはた居よなるも
一石わらし由よ今ハ一石とまうなるなりあり
米ありきとの也食貨欲の地頭といふ多き
と此ありと國郡を不美ハ行一近年一思いの
外なる凶事出来多身をうかひたる人よ民
困窮せざるハ行一民ハ是國の也といふ

天命乃の分り也 同此民間ハ事とされ
野果也と入りゆらん 云國志本ハ民也民ハ
食也民食乃事なりと云てハ國郡を治る
事乃大なるものありと云てハ窮理ヲ学
こころししりて予りて予りて予りて予りて
も亦一知事ハ何れも大君諸侯ハ其任あり
夫を責むるなり終てハ天よ應一終てハ
故云人君ハ億兆よよりて予りて予りて予りて
此道至誠を盡して一人乃至誠を盡し示す
あるハ人君ハ民乃父母也親此子よいける
先とて予りて予りて予りて予りて予りて予りて

利之後教一故小仁君後穡入銀維をさす周
 聖の詩云七月流火九月授衣一之日威爾發二之日絜
 烈無衣無褐何以卒歲三之日千耜四之日舉趾同
 我婦子饁彼南畝田峻至喜七月八月其代乃七
 月也斗柄申建乃月方中今の七月也流火
 火星也大火心星也此星六月乃昏地之正南は
 七月先昏小至之下より西より流る故し流火と
 いへり堯此時八此星仲夏五月先昏小南小中
 地乃周公旦乃時より一千二百四十年餘れ
 七歳差といふより十六七度退く故し此大
 火星六月乃昏中して七月北昏小は地ノ末
 北位小有也七月八月より残暑甚しといふ也

大火星北西小乃を見そ八月を越之九月霜降
 一は右小の暑氣此中小冬乃用意有也何事
 と時先達てかろれは乃當りて人癘
 煩ひく切かりて此より九月乃初之寒く衣と
 用へ此事を七月流火候なり感んする
 なり故小人ノ衣をあらは寒を告げり
 河より一之日八今北十一月也斗柄子建一陽
 志月かれ名一之日といへり周代は乃
 此月を以て正月と用ひしなり威爾發ハ風北寒
 といふ一二之日八今北十二月也斗柄丑建
 陽此月より栗烈ハ氣寒也風吹くをさすハ
 至極なり也

なり衣のさぬ乃衣服なり得ハ毛をい也衣服の用
 きたるてハ此寒氣をいそのふ年を越カ
 三之日ハ今此正月也斗柄寅寅建乃月也干象と
 農具を収出—其用を利にら也四之日ハ今乃
 二月也斗柄卯卯建乃月乃利舉趾ハ田をい也
 ともいふく女をいすい足をあけとに依土中小す
 入土といふ兼てあり易より上入下勤とあり格格農
 具此物今日日本よりハ牛よりいれとがけと耕
 といふあり馬馬よりいすといふいふのとがきくといふ
 ありといふより人のいふといふあり上田を
 毎年作り中田ハ一年より先く作り下田ハ二年
 といふて三年めくといふなりといふなり

といふものさぬとむじとといふり今ハ中田下田と
 毎年田より作るなりといふ多といふはハ一年中
 といふは田なりといふなり又いふは
 太田畑畑もいふなり地をい今ハ田よりいふ人カといふ
 といふのさぬいなりいなりいなりいなり
 といふは人なりいなりいなりいなりいなり
 牛馬此力をいふなり今ハ上田乃地よりいふ
 といふはいなりといふは人カといふなりいなり
 ともいふ同我婦子婦子饑饑彼彼漸漸歎歎といふ者達達老成
 とあハ皆田よりいふなりいなりいなりいなり
 といふなり食物を作り田よりいふなりいなり
 といふく農事といふ事といふ官なり今ハ郡代郡代奉奉行行の

しりし時先達てよく農事振へしむる事と悦也
今志郡代郡奉代官此民間を行くぐの民のたひ
成り多し一は倉野^{サキ}野^{サキ}近村乃考す七出せにけり
じふ一宿^{サキ}宿^{サキ}へ見廻^{サキ}宿^{サキ}をうけしとて人足多くはわか
れさく農事とさゆけし成り多し一は乃むお功
若くも地頭、民間へ奉公人の往來せぬ候よとて
なりし一への田長、民間へ奉公あけきを民よりと
なり農事をさゆけし事、わしとわく助する事
多かりし事なり七月流火九月授衣春日^{ハヒスニアウタ}載陽有
鳴倉^{ヒル}庚^{サウ}女^{カウ}勢^テ懿^イ筵^シ導^{カウ}彼^{カウ}微^シ行^{カウ}爰^ニ求^ヒ采^ヒ采^ヒ采^ヒ春日
連^チと采^ヒ懿^イ系^シ和^ニと女^メ心^シ傷^ヒ悲^シ殆^シ及^ヒ公^ノ同^ニ歸^ルまま此日
卯^ウと戌^イとてか、一と倉^{サウ}庚^{カウ}乃^{カウ}うらむひと、卯^ウと戌^イと聞^ク

去年七月此流火九月志授衣三月おのせりなり
つらまよなりて目^メとふうらむひと、かま^カと心^シ一
感^{カン}と心^シなり懿^イ筵^シハ肉^{ニク}みく^クらりし^シさか^カと也^ヤ花^ハの^ノま
を^ヲの^ノ一^一微^シ行^{カウ}ハ細^{ホソ}と道^{ミチ}也^ヤ柔^{ニウ}采^ヒハ^ハの^ノ采^ヒ乃^{カウ}やわ
ら^ラ也^ヤ采^ヒ乃^{カウ}一^一の^ノ道^{ミチ}ハ^ハ人^ノの^ノ採^ヒ采^ヒと^トる^ル乃^{カウ}一^一の^ノ采^ヒ
これ、^カを^ヲ乃^{カウ}と^トし^シて^テひ^ヒく^クゆ^ユと^トる^ル乃^{カウ}一^一の^ノ采^ヒを^ヲ求^ヒく
采^ヒ乃^{カウ}初^{ハジ}と^ト出^デく^クら^ラい^イと^トす^ス一^一の^ノ采^ヒ一^一の^ノ采^ヒ也^ヤ遅^チハ^ハ日^{ニチ}志
う^ウら^ラり^リし^シは^ハ也^ヤ日^{ニチ}乃^{カウ}ゆ^ユく^ク事^{コト}ハ^ハつ^ツと^トく^ク採^ヒと^ト春
ゆ^ユに^ニゆ^ユは^ハ乃^{カウ}そ^ソと^トあり^リ採^ヒハ^ハも^モと^ト采^ヒ也^ヤひ^ヒと
初^{ハジ}と^トな^ナり^リて^テ行^{カウ}ひ^ヒと^トの^ノ采^ヒは^ハ采^ヒと^ト食^シと^トす
事^{コト}なり^リし^シ采^ヒゆ^ユは^ハ白^{シロ}蒿^{コウ}と^トし^シ命^{メイ}一^一し^シと^トり^リ和^ニと^トす
徐^{シヨ}也^ヤと^トあ^アれ^レ、ゆ^ユら^ラゆ^ユら^ラる^ル心^シ也^ヤ春^{ハル}此^{コノ}日^{ニチ}なり^リと^トす
十七

やの多しとて天人一体の心をもて女此のつらかりしと
わうひおめすしよりいんをいんるると女心傷悲春の女悲
秋ハ男ガ悲といつて天地の物化し感も也公子ハ國君
も子弟也同佛トハ春ハ婚姻乃時をれる公子國中
イキもくかひそ縁邊を約せし女をじしる也親
迎の禮也女ハ父母よ遠こしし事と思ひてがらく
かり乞ひにへる子貴家乃質素なりと驕奢
かたの風俗を見へし國中若女此賢なるやと求之
妻やししる縁籬蚕桑とて年をとつと先づかハ
家事富むとみく民よししやらといぬし年乱らん
憂いし七月流火八月崔葦蟄月條染取彼芥
折以伐遠揚倚彼女染七月鳴鵙八月載績載玄
載黃我朱孔陽為公子裳崔葦ハ行いり八月
成くくししるの時多このわをみく地なる
を月也こころハ春三月よりとれ事なれをわハ今
年八月よなきとのあれハ来歲乃事とわし
を以て遠也七月流火を見く来月おれを
を思ふ也蚕日ハこころの時多をいふ也條染ハこころ
盛なる時ハ事とわしつとハたらさるぬり枝が
折来りてなるし芥折ハたのまきとわし此類あり
伐遠揚ハ染ハ大木あり婦女のいふかつと木と
ハ染をつししもハたのいふ教ハ遠る上乃枝をを切
りて下しとて事とわしなり倚ハ事とわしつと
枝をよとわし也女染ハ月よりふ木の染をれハ了た

載績其功言

私其狴戲

于公秀乃八苞

之矣八苞を以て小藁ハ斬乃各なり今此遠志也といつり
 四月此陽ハ月とて陽氣より移る故に微陰也
 胎を下し受莢草氣を感してこゝろ秀川蟬ハ
 蟬也五月ハ一陰下し生まを成りせし陰句を感して
 先ん鳴なり秀莢ハ物成乃初り也鳴蟬ハ秋ハ漸ぶ
 獲ハこゝろねを成り也隕擇ハ草木ハ葉乃落る也
 十月ハ諸木乃葉はつる各ハ風を感し木枯といつる
 船ハまみししハ年とつり孤狸ハまみしはたれなり
 たり求衣ハ皮衣なり子乃裘といふは皆公子乃
 衣を免しし身ハまらと初らざる者とすなり公子此裘
 作也國君此子乃山野とつり民乃也とて

之れハ民其功德を感してわづらひしとて二月同日
 十二月ハ年中とてとくねらりて山決を取廻し大
 切りし也十一月ハ面くよあつたふりり十二月國君
 之りて國中の兵をひきあはせ大よかりし終也
 獸を多くとらんといふは軍法を成りしとてなり
 故に續武功といふは武事をなすなり也先人の武威と
 以て國天下を平治し夷狄とあはれし其武功也
 之習也也十一月ハ農事終といふは民が秋冬に
 月をこゝろとらんといふは徳なる者ハれよ小牧ハ
 切り十二月ハ民事とては舞之民力用也故に
 大よかりし戦陣の法をなすなり也教へる民は
 戦ハ志しつらんといふは道理也といふなり軍法

了やへんハ疵をかりやる事 死する事 名別しくあり
あつたれある人乃ちいふ人といふれをとも功ある人
多かれ少くはるもの也 雞ハ一歳辰研ハ三年辰也其
小を私ハ一太とばかりやる事よき事なりとくことなる
よありすかりの初めありそのあたる時の事也ついに六
農兵あり其よりとの得物を志ふよりありし事なり
かりハ進ふ其くもよあり先敷つたりと書ふなり
君乃御目よ心をもち組して此得物よりよと信ふ初
尾といふことく君よたてまはる也多くハ皆命しと
民間乃用となす一老翁なり君此民をいひ給ふ事
子のことハおし私欲を忘る何事ありし君を思
ゆ也四月ハ暑くいふことくされ久病を思ふ

陰氣乃初りくきされ所を知五月かく蟬をすく一陰
下よけりともいふを感と見たり八月乃四陰をもち子
月志純陰ハ至り大寒 至り君ハ善悪をよき
く乃時よ知く其備をもちくも也此章冬ハ未
氏乃いふはかりして民事をもちく 装を作り
て寒とゆやく事詩乃主意也ゆりよ四月乃秋蟬五
月志鳴蟬をいひく辞を起し終ハ其意は具体の
たふなり事聖人よありす志て誰り如此なり人道徳の
事ハトく道徳の盛善言外ハ明なり天道の道徳ハ人
倫の正道文武ハ義仁しく備あり五月斯ハ蝨動股六月
莎雞振羽七月在野八月在宇九月在室十月懸蟬入我
床下穹空重熏風塞高墻戸嗟我婦子曰為改歲入此室

寒とよめやとよまを侍へ〜と也是若者乃愛也此詩各
 とぬせを主とす然るに五月斯螽鳴と因て一隴
 下よけとて人なき所を知らず〜日暮名祀め〜たてて
 穀乃事をも思ふ治世も礼と忘れしと天應をむじたりと
 せざるの憂也九月築場圃十月納禾稼黍稷重穋木
 禾藜麥嗟我農夫我稼既同上入執宮功晝爾干茅膏
 爾索綯亟其束屋其始播百穀場ハハ也圃ハウの也
 春夏より七八月ナセ物生さる此河ハ土をたぬ
 也〜と穀物をとる九月十月月穀稼りい終りハ今時
 つとめとめくこが場ととる也十月納禾稼ハ田を
 場ハたさぬ入りり禾ハ穀也皮をさる〜重穋名とい
 たりもみの事也食ととる河ハ田土すりうととる

皮をさる也常ハハもみよてむさる也米ハ出さる
 ととる費也〜ととる也名よととる也皮をさるは風味
 右別り〜と人の名もよととる也穀ハ米ハ黍と稷
 かりて田野ハあると少也ささる人〜後ハ熟〜後
 重といひはよる人〜熟ととるを稷といふ禾ハ麻藜
 麥といふあさよめむ〜此冬〜わ来年春夏ををて
 五穀ハ〜とるも〜の〜人備ま〜と也又禾とい
 ものハ禾ハ五穀名物名なり五穀ハれ〜ハ〜
 かり嗟我農夫といハ我等農人とい〜
 の〜隣家みれ〜ハ〜意也既同と
 田野ハたか〜と〜れ〜ハ〜
 上入ハ公ハ奉〜人負物也君ハ君ハ〜
 執宮功と

農事終ると初めたる儀の段まつてしむるに
民の力依りて一年の三日也や終るは農事
指合ていつらと農事終ると民の遊むに
居ねをわらひむむつみかぬ一垣をゆい
終るは山野にひくのもまより夜はな
ひひらぬ織あともあみ又ハ薪をとり木と
春の耕作前よま夏秋冬よの用をこころ也播
百穀ハまはひぬくの物をまけらぬもま也膳中の
一飯と一粒ノ民乃辛若と出まりのいり人の
そ食と。其功を思ひり天下ハ相助お報也
道理なり故ハ善をたてり若ハ天地ハ賦なり況
口驕て民と々一先人乃言ハくるとはまや士乃文と

厚い礼儀を慎こる馬の遊むは勇とたしむる民は
耕作の業一甲一土天下を敬言固して民を安り
先君上の干城とわら民威をたて世乃の司か
らんと紙張と道徳をたてるのありハ一民の業
報じや思ふもの也國郡を至ハ士は文をたてる先人の
善惡をた民乃親若をわらむとて人民の君師
その何ぞ下の情を知らるやとせんらる飲食を
たしむるは飲食の人のいづくは依りしと
古今乃通義也夫諸侯大士比會合は馬を以
一和とるハ礼樂を以て請を作り哥とよ人造化乃
功用を命謝して道徳仁義を思ふもの也
人の言治乃飲食衣服家屋室物米穀金銀の事

農論

乃ひぬるはまは道よりわきと欲あはるををりしに
心交同候人老詩ハ賢者ハ時を失たるとあり云ふなり其
詩云彼候人ハ何れ也與彼候鳥之子三百赤帯候人實客
をわたりしりあるれ官といひり君より先達く隣國の志志
客たるををり迎ふ者あるれ卿大夫の事あり如彼を
これ衣着たりありまこととていふも今も河長乃とこせ
るよりちやと赤帯ハ大夫以上乃命服といひり三百と
人多くつきたる也維鷄在梁不濡其翼彼其之子不
其服鷄ハ鳥乃若也羽をぬくこと何れ若勞とぬく
く梁ハ魚をとりて食ふこと也是とゆきたるは是れ
章といひり人徳となく功をたかくて富貴あるあり
服ハ不叶と大夫名服ハこれとと大夫の器量ハ此

やあり卿大夫は職ハ其君と道德ハこれと士をた
よなうつ一民を教へ安んずること也其徳功となくは
脂着く人多くつきたるなりハ鷄乃梁ハ魚とぬ
くは食うこと也維鷄在梁不濡其翼彼其之子不
其味ハこれと也嬌ハ寵なり出頭ハ諸侯小なり
つり時先くこと也前章ハ意ハ皆小人ハ其寵
ハ此と也何れ労働となくは記事ハ此とありはめ
くも也蒼乃蔚乃南山朝陽婉乃變乃其斯創蒼
鞠ハ草木乃盛ハ多と候いれ也朝陽ハ雲氣乃のやれ
たり南山ハ君朝ハこれと小人時を得く雲氣乃
ハ此とあり草木乃盛ハ此とありハ婉乃
ハ此とありハ此とありハ此とありハ此とありハ此とあり
ハ此とありハ此とありハ此とありハ此とありハ此とあり

寵愛せられし此統禦のしるしは女主人の何れも
反復するも思ふに真正の心何れもくみきりし人か
るに賢夫乃礼の行はれし時賢夫の
禮なり故に困窮せり是故にたゞ一人の富貴
をこころ先賢者、貧賤困窮し居て一人乃
たし十分賢者なりと道に於ては六の
ゆえにあり無欲なれば義に於ては禄位なきと
辭しと六を介し成る主人と傍筆中と奇特と
はと又しさり紅貨のつり居るははれしと
欲心不義の者しく備り彼清人乃と急ハ勢を去て却
て不清人乃トト付ひつひなき体トなるとの也初めハ
在欲として義理とあり奇特と思ひ者ト其なりと

利を以て未だ此体を見てハ今も時代義理清白ハ
用乃礼儀忠節を以てしてはらぬれきなりと思へんそ
初よりして礼儀よりなり子孫たるもの賢人君子ハ
也よそれなきを親の時はあはさる道なき成りて我
等がかりしを親に河ハト居たる者よよなきり世
間ハあつて人の下ハあはさるを礼を以てハ
ありさよよ加れし思ひしむなり彼欲婦の辭と
ハ多職禄とも辭退せしめて過しむる者と初めハ
さしかりし思ひ者ト自然ト備りて其体よ
きを見くハハあり者なり今乃時代を見ありあり
として礼なる也終ハ欲心利害習性となりて
貴賤ととも知りなき美同トト上層人あり

文意

十六

を第一としてなれ義不義をわきまはれ親子は身
 名中と欲は違ふ目の見ぬ風俗となりて凶礼
 いたるものなりいふかき一をたんで賢者ハ世にあり
 て奉ふせし根柢とあつくといふと父母妻子凶乱に
 せぬるも也彼妻子母もいふやこれと也終に賢夫の
 礼を得く辱へあつた不貞の女の富貴よりさたると
 容色さうんあつたも憂へられなると不仁の夫もれ
 る所よりを老後おのあつたも一さたれやゆよなりま
 あり道かき時を賢夫貞女ととも一旦困窮とせられ
 たりあくの賢夫、道終乃賢人といふと礼義をせざる
 の賢夫なり心法を受用ととも志ハ世間乃禍福窮通
 なる者也通達として幸福を得る時ハ人をとらるる
 窮塞として禍難いあふ其身をよくとし人の犯
 一そののさうく患難来ると君子乃徳成といふ也
 中ハ身毀固ハ毒薬なり一用ひるも一はく
 病を治すもれりあや

三都

書物

問屋

江戸日本橋通一丁目

須原屋茂兵衛

同 通二丁目

山城屋佐兵衛

同 通四丁目

須原屋佐助

同 兩國横山町二丁目

出雲寺萬次郎

同 兩國横山町三丁目

和泉屋金右衛門

同 淺草茅町二丁目

須原屋伊八

同 芝神明前

岡田屋嘉七

大阪心齋橋南二丁目

敦賀屋九兵衛

同 心齋橋安堂寺町

秋田屋太右衛門

京都寺町通松原下ル

勝村 治右衛門版

同 寺町通高辻上ル

同 伊兵衛

